

年 報

第 1 2 号

平成 2 8 年 9 月

香川大学総合情報センター

目 次

巻頭言	最所圭三	1
-----------	------------	---

解説

CMS化に伴う総合情報センターWebサイトの新サービス戦略		
.....	後藤田中, 植田めぐみ, 末光京子, 前田由佳, 太田芽衣, 立石晃一, 青木有香, 近藤まゆみ	3
遠隔会議予約システム (URAシステム)	末廣紀史	6

活動報告

香川大学ネットワークシステムの概要		
…………… 今井慈郎, 曾根計俊, 山下俊昭, 川口政秀, 土居敬典, 高橋岳水	9	
香川大学の教育システム～平成 27 年度報告～		
…………… 林敏浩とゆかいな仲間たち	10	
総合システムについて～ 学認対応とUPKI 証明書発行状況 ～		
…………… 後藤田中	11	
平成 2 7 年度ヘルプデスク報告	…………… 太田芽衣	14
幸町キャンパス報告	…………… 山下俊昭	15
医学部キャンパス報告	…………… 高橋岳水, 川田延枝, 多田志乃舞	17

部門紹介

総合情報センター部門再編について	最所圭三	19
教育デザイン部門紹介	村井礼, 藤本憲市, 岡本裕之, 裏和宏, 金山まい, 田所育久子, 豊嶋尚子, 山口明日香	21
情報セキュリティ部門紹介	後藤田中, 福家隆, 高橋岳水, 川口政秀, 土居敬典, 山下俊昭, 末廣紀史, 青木有香	22
ユーザーサービス部門紹介	最所圭三, 近藤まゆみ, 立石晃一, 前田由佳, 山下俊昭, 末光京子, 青木有香, 太田芽衣, 豊嶋尚子	23

業務報告

平成27年度パソコン室利用統計	25
平成27年度総合情報センターPC利用実績	29
平成27年度開催の会議および行事	34
センター関係会議委員・スタッフ一覧	37

資料

香川大学総合情報センター規程	39
香川大学総合情報センター会議規程	42

香川大学総合情報センター利用規程	44
香川大学キャンパス情報ネットワーク運営規則	48
香川大学キャンパス情報ネットワーク運営細則	50
編集後記	53

巻頭言

総合情報センター長 最所圭三

前号を発行したときも、総合情報センターを取り巻く環境の変化の大きさに驚いていましたが、その変化が更に大きくなってきた感があります。セキュリティインシデントが発生し、その対応およびセキュリティ強化に追われる 1 年でもありました。また、香川大学が中心に行っている四国の国立 5 大学が相互に連携して行っている e-Learning のサポートも総合情報センターの大きなミッションの一つとなっています。さらに、平成 29 年 9 月にネットワークシステム、平成 30 年 3 月にコンピュータシステムの更新が迫っています。

これらに対応するだけでなく、今後の総合情報センターの活性化のために、香川大学総合情報センターでは組織をリニューアルし、本年度 4 月より運営を開始しました。本報告では、ここ 1 年の総合情報センターの活動報告、総合情報センターのリニューアルした組織の紹介を中心にまとめています。

最後に、このようなセンター業務を遂行する上では、センターのスタッフだけでなく、総合情報センター委員の皆様、多くのユーザの方のご協力を頂いたことの賜物であることを記して、謝意を表したいと思います。

解 説

CMS 化に伴う総合情報センターWeb サイトの新サービス戦略

後藤田 中¹ 植田 めぐみ¹ 末光 京子² 前田 由佳²

太田 芽衣¹ 立石 晃一² 青木 有香² 近藤 まゆみ²

N.Gotoda¹ M.Ueta² K.Suemitsu² Y.Maeda²

M.Ota¹ K.Tateishi² Y.Aoki² M.Kondo²

(総合情報センター¹, 情報グループ²)

1. Web サイト更新概要

2015 年 4 月から Web サイトに関する具体的な更新作業の検討をプロジェクトとして開始した。著者ら全員によって、作業計画から構築まで行い、2015 年 11 月に学内・学外へリニューアル公開を行った(図 1)。新しい Web サイト構築に向けたコンセプトは、「アクセシビリティの向上」であった。具体的な課題(改善)としては、以下があげられる。

- コンテンツの内容ごとの整理(階層化)
 - 目的情報への到達に至る動線の工夫
 - さまざまな端末(画面の広さ)への対応
 - 情報量の拡張&質問・フィードバック強化
- これらの改善について、従来の HTML ページに

よる静的なコンテンツに基づく Web サイトでは、例えば、ページ間のリンク変更や画面配置等における試行・確認作業だけでも多大な作業コストが生じる。加えて、スタートアップ後の運用でも同様の課題は生じる。そこで、静的なコンテンツから CMS による動的なコンテンツに基づく Web サイトへ完全移行した。本稿では、Web サイトの CMS 化を通じた、総合情報センターのユーザに向けた新しい情報サービスの提供戦略について述べる。

2. CMS 化における狙い

2.1. ユーザ側から見た CMS

一般的な CMS では、利用ユーザの認証を通じて、情報公開範囲等を設定することも可能である(例:ポータルサイト)。今回 CMS での構築にあたり、一般ユーザ(学生・教職員)に対しては、ログイン画面を通じた認証、ユーザ権限や権限に基づくアクセス制御などは意識させないようにした。つまり、従来の静的コンテンツと利用方法は何ら変わらず、負担なく閲覧できる状態としている。

2.2. 管理者側から見た CMS

一方で、管理者側では、以下の仕様要件を策定し、これを満たす CMS のオープンソース Concrete5⁽¹⁾の導入・拡張を行った。

- サイト編集時に完成形の確認を行える
- デザイン的なテーマやサイトの構造の改変が容易である(カスタマイズ性が高い)
- 利用度の高い部品を、テンプレート化できる
- CMS 自体が、レスポンス対応されている
- 時限的なものも含め公開設定が容易である

管理者は、機能自体の特殊な改良を除いて、ほとんどの作業が図 2 のような Web ブラウザでの GUI(フロントエンド)で、作業完結できる環境の構築を目指した。また、文章内容のみを入力することで、適切なデザインが付与されるテンプレート化も積極的に行い、運用・保守の負担軽減に務めた。



図 1 リニューアルされた総合情報センターHP



図 2 CMS における管理者画面

3. 各コンセプトに対する戦略

3.1. コンテンツの内容ごとの整理(階層化)

新しい総合情報センターでは、主なコンテンツは以下の 5 つに分けた上で、階層化を行っている。

- 提供サービス
- 設備・施設案内
- センター紹介
- よくある質問
- お問い合わせ

例えば、多様化し続けている提供サービスを、網羅的に認識しやすいよう格子配置した (図 3)。



図 3 提供サービス画面

3.2. 目的情報への到達に至る動線の工夫

各サービスは図 3 を入り口として、2,3 回のクリックでほぼすべての情報に辿り着けるよう、深い階層とならないよう配慮した。この点は、提供サービス以外の他の主なコンテンツも同様である。また、利用頻度の観点から需要の高いものについては、トップページ(図 1)にバナーを設置する動線配慮を行っている。サイト全体へ導入したアフォーダンスを考慮したデザインにより、目的とする情報へ直感的にアクセスしやすくなっている。

3.3. さまざまな端末(画面の広さ)への対応

ユーザは、高解像度のディスプレイとセットになった PC 端末以外からも積極的に情報アクセスを行う状況がみられる。例えば、2016 年 3 月時点で、総合情報センターのサイトを閲覧している端末の 3 割がスマートフォン (一部タブレット) であることが判明している (後述する Google Analytics⁽²⁾の結果より)。このため、図 4 に示すように端末の画面サイズに応じて、レイアウトを変更することで、画面内の情報量や見せ方を調整するレスポンス対応を行った。

3.4. 情報量の拡張 & 質問・フィードバック強化

CMS 導入による作業負担の軽減から、例えば、図 4 に示されるようなお知らせ作成・整理に関わる管理者側の物理的な作業時間を確保する一方で、情報量の拡張にも配慮している。従来よりも、情報量を増やし、図 5 に示されるような総合情報センター開館情報も Web 上で公開を開始した。



図 4 低解像度向けのレイアウト表示例

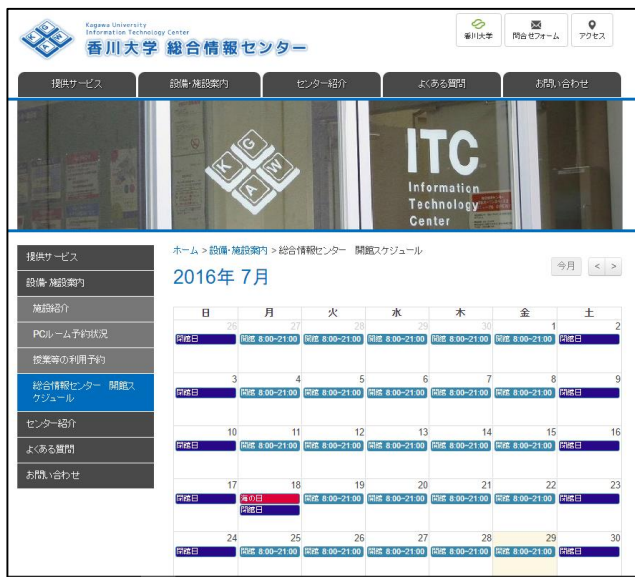


図5 総合情報センターに関する開館情報

The screenshot shows a contact form titled 'お問い合わせ項目' (Contact Item) with a dropdown menu set to '選択してください' (Please select). Below the menu is a large text area for 'お問い合わせ内容' (Contact Content), marked as '(必須)' (Required). A CAPTCHA image is displayed with the text '認証コード' (Authentication Code) and instructions: 'アルファベットの入力用小文字も対応しています。クリックするとコードを変更します' (We also support lowercase letters for alpha-numeric input. Click to change the code). At the bottom are buttons for '入力内容確認' (Check input) and 'キャンセル' (Cancel).

図6 CAPTCHA 認証対応の問い合わせフォーム

The screenshot shows a FAQ page with two sections. The first section is titled '統合認証ID/パスワードについて' (About Integrated Authentication ID/Password) and contains two questions: G01 '統合認証ID(LDAP)のパスワードを変更したいのですが。' (I want to change my password for integrated authentication (LDAP).) and G02 '統合認証ID(LDAP)のパスワードを忘れてしまいました。' (I forgot my password for integrated authentication (LDAP).). The second section is titled '無線LANについて' (About Wireless LAN) and contains two questions: A01 '自分のノートパソコンやスマートフォンで学内の無線LANを利用する方法を教えてください。' (Please tell me how to use the university's wireless LAN with my laptop or smartphone.) and A02 '自分のノートパソコン・スマートフォンから無線LANのアクセスポイントに繋ぎ、ブラウザを開くと「インターネットに接続してません」と表示されました。これではMACアドレス登録画面へ進めないのでしょくか？' (When I connect my laptop/smartphone to a wireless LAN access point and open a browser, it says 'Not connected to the Internet'. Can I proceed to the MAC address registration screen?).

図7 よくある質問の画面例

これに加えて、総合情報センターへの質問対応とそれを反映したフィードバックを強化した。従来のメールによる問い合わせを実質的に廃し、問

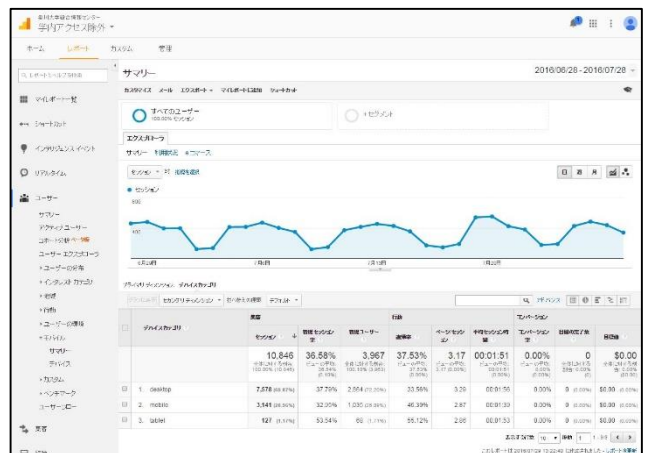


図8 Google Analytics の分析画面例

い合わせ前に、ダイアログ式で“よくある質問”と“回答”が表示される問い合わせフォームを導入した。これにより、ユーザは自己で質問の位置づけ整理を行い、可能な限り、自己で解決できる課題とそうでない（本当に問い合わせを行わないといけない）課題を認識できるステップを導入した。解決しない場合の問い合わせは、CAPTCHA 認証に対応したフォームから行う（図6）。

ユーザからの問い合わせで照会の多い質問については、よくある質問（図7）の一部への掲載検討を行う。なお、ユーザがこちらの意図したとおり満足できているかどうかは、サイトに組み込まれたGoogle Analytics の解析結果（図8）から、質問に限らず、サイト全体の利用動向の分析を行える。

4. まとめ

2015 年 11 月に公開された総合情報センターのWeb サイトについて、新しいサービス戦略の面からの対応を述べた。現在も Google Analytics による利用動向の分析を行っており、2016 年 4 月からの新しい部門体制においては、情報戦略部門における戦略検討の参考となることを願う。また、ユーザーサービス部門でも具体的な施行を行い、さらなるサービスの改善に結び付くことも願いたい。

参考文献

- (1) Concrete5, PortlandLabs, <https://www.concrete5.org/> (アクセス日:2016 年 8 月 4 日)
- (2) Google Analytics, Google, https://www.google.com/intl/ja_jp/analytics/ (アクセス日:2016 年 8 月 4 日)

遠隔会議予約システム “URA”

末廣 紀史

N.Suehiro

(香川大学 学術・地域連携推進室 情報グループ)

1. まえがき

昨今は国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携する大学間連携事業が盛んとなっている。また、技術的にも遠隔接続での会議や授業を可能とするインフラが整いつつあり、大学内でのテレビ会議端末の導入件数も増加してきている。

本学に於いてもテレビ会議端末のみならず、最大 30 拠点 (HD 画質) が接続可能な MCU (Multi-point Control Unit) を所有しており、プロジェクト間でのテレビ会議接続利用を活性化する為、MCU を一般ユーザーでも操作できるシステムとして「香川大学遠隔会議予約システム URA (Universities Related Administration)」を新たに設計・構築した。

本稿では、開発の経緯やシステムの概要、今後の利用について報告する。

2. 本学の遠隔会議利用状況

2013 年度の「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」にて、前述の、多拠点のテレビ会議端末を接続する土俵となる MCU を導入した。現在はこの MCU を活用し、上記 5 大学との同期型 e-learning やシンポジウム、会議に活用されている。

他にも徳島大学と連携しての四国防災・危機管理プログラムを毎週開講し、四国 8 大学での e-Knowledge コンソーシアム四国でのプロジェクト、四国学長間会議や、本学 4 キャンパスを結ぶ学内イベントなど、教育・研究、運営業務も遠隔会議を使用している。

本学の MCU は、テレビ会議端末内のいわゆる内蔵 MCU より、機種間の相性等の影響が無く安定して稼働している。内蔵 MCU で会議をしている事業も多いため、より安定した会議接続に対する潜在的な需要も見込まれる。

3. 既成品との比較

MCU 単体でも多拠点会議の操作は可能だが、一般のユーザーが操作できる設計にはなっていない。

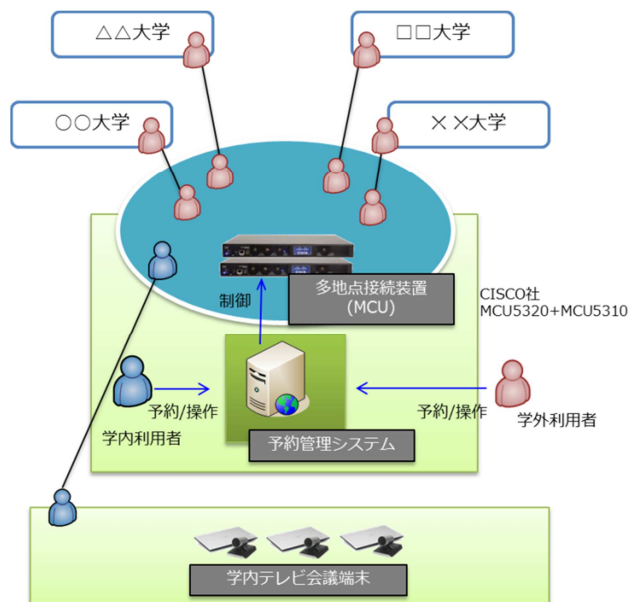


図 1 MCU と予約管理システム

図 1 のように MCU に対して制御を行う予約管理システムが必要となり、本稿の URA もこの図 1 の概念と同様である。

日本国内でも、数社から予約管理システムの製品が販売されているが、もともとの発想は自組織内のテレビ会議端末を社員が操作するものであるため、大学間での運用に不向きな部分がある。

例えばログイン ID 毎に制御可能な拠点を分ける機能が無く、関係の無い端末まで発信ができてしまう仕様が一般的である。つまり他大学のユーザーにも ID を発行して利用する為には、セキュリティの課題が残ってしまう。他にも、テレビ会議端末のカメラを操作する、音量を調整するなどの機能を実装されているが、他大学の端末に対して SNMP でアクセスしたり、端末の ID/PASS 情報を提供してもらう必要があったりと、現実的には使用できない機能となる。

必要最小限の機能と、簡素化されたインターフェースのシステムを構築した方が、低コストで相応しいシステムあると判断に至った。

4. URA の設計ポリシーと実装

新システムの URA では、申請に基づいて、プロ

プロジェクトごとに管理対象の会議端末を制限した ID を発行するものとした。香川大学と複数大学とのプロジェクトにおいて、香川大学が不在であっても会議接続を実現できるようにし、大学間での利便性を向上させようと考えている。

また、様々な目的で複雑化しがちなインターフェースを、実務を担当する職員たちで打ち合わせを重ね、デザインを作成した。タブレット等でも操作が可能なデザインとしても設計している。



図 2 ログイン画面

ログイン画面(図 2)では、システム名と香川県に伝説の残る浦島太郎を結びつけてデザインアイコンを作成した。その他のページも含め全般的なデザインは本学の職員で作成した。



図 3 予約登録画面

会議予約画面(図 3)では、会議名と終了日時のみを必須項目とし、必要に応じて参加拠点をリストから選択、スケジューラーでの予約状況確認、画面のレイアウト選択(図 4)などを行って登録する。繰り返し行われるものはパターン登録し、以後は呼び出すだけで登録が完了する。

登録後、開催時間になった場合、もしくは即時開催の場合は発信画面(図 5)に遷移する。通常は発信ボタンを押すだけだが、拠点の追加や開催時間の延長、レクチャーモードの切り替えなどもこの画面で行える。

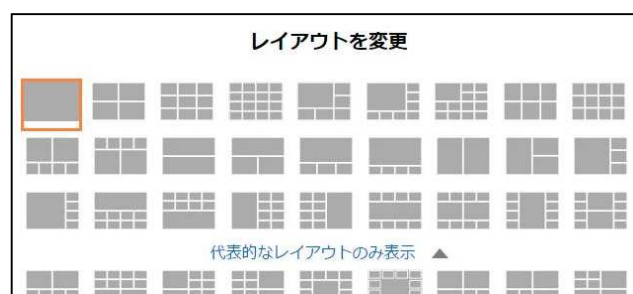


図 4 レイアウト選択画面



図 5 発信操作画面

その他、会議開催の履歴を収集することも可能であるため、利用頻度が高い部屋やプロジェクトの統計を確認することもできる。

5. 今後の展開

テレビ会議端末の操作は、慣れてしまえば簡単であるものの、一般の教職員には抵抗がある。リモコンで IP アドレスを入力する段階でハードルが上がってしまう。

今回、マニュアルを用意せずとも、画面を見れば基本的な操作ができるシステムを用意することによって、既存端末の利活用、ログを元にした活用状況の分析にも効果が期待できる。

今後はプロジェクトの担当者向けへの講習会を実施し、総合情報センターの HP にて申請書やマニュアルの整備をすすめる。最終的には学内のみならず学外の一般ユーザーに対しても利用を促し、テレビ会議を活用した教育・業務の効率化に貢献したい。

ただし、MCU リソースの枯渇や不正な発着信など、注意深く運用していく必要がある。

活動報告

香川大学ネットワークシステムの概要

今井 慈郎¹ 曾根 計俊² 山下 俊昭² 川口 政秀² 土居 敬典³ 高橋 岳水⁴
Y.Imai¹ K.Sone² T.Yamashita² M.Kawaguchi² Y.Doi³ T.Takahashi⁴

(総合情報センター¹, 情報グループ², 農学部会計係³, 医学部情報ネットワーク管理室⁴)

1. まえがき

現行「香川大学ネットワークシステム」(以下 NS) は平成 28(2016)年に大幅模様替え(新システム導入)を迎えるため、ほぼ最後の現行 NS の活動報告となる。大きな変化は人員の新陳代謝であり、新鋭の後藤田先生を迎え(情報セキュリティ担当)、盟友の曾根氏が平成 27 年度一杯で学外に去られた。本稿では前年度形式を踏襲して現行 NS について現状報告を、ファイアウォール(2 節)、ドメイン名前サービス(3 節)、BCP 対策を含むネットワーク環境(4 節)および端末機器認証サービス(5 節)の順に行う。

2. ファイアウォール

現行ファイアウォール(以下 F/W)では、セキュリティ対策の要を担い、効果!(高価?)的な二重系の採用で、パケットフィルタリングや URL フィルタリングなどの「強力な F/W 基本機能」に加え、『耐障害性・メンテナンス性を考慮。運用負荷の低減。』(導入業者の弁)にも配慮したシステムとなっている。具体的には、GUI を利活用した可視化機能をベースに、「アプリケーション識別」機能によるインバウンドのみならず、アウトバウンドの通信に対しても効率的制御を実現してきている。この結果、不幸にしてクラッキングされたサーバ機器から外部に不正通信や情報流失を水際で遮断できることも期待できる。昨年度も紹介した通り、1) 仮想サブネットワークを実現し集約的配置を可能にすることで、セキュリティ対策を一本化・高機能化を実現、2) 同じ 80 番ポートでのパケット送受信であっても通信内容精査により、不正アクセス防止や Phishing 被害の未然防止が可能。などが大きな特徴となっている。

3. ドメイン名前サービス

Domain Name サービスの質的・量的充実も現行 NS の特徴である。本務である学内外への Domain Name サービスはもとより、DHCP サービスへの支援、MAC アドレス管理システム等との連携など、多岐に

わたるサービス支援が図られている点が特徴となっている。これも昨年度紹介した通り、防災 BCP 対策の効率的実現のため、DNS サーバ複数台を学内に分散配置し、SINET との通常のインターネット情報通信、医学部を経由する SINET 障害時の補助的インターネット通信、および各キャンパスから直接ベストエフォート型インターネット接続など多様な通信形態を支援できる。

4. ネットワーク環境構築

前述の通り、防災・BCP 対策が不可欠な状況下ではマルチホーム型 NS への移行は必然であった。防災 BCP 対策を主眼としたが、通常時にも、各キャンパスでは、学内認証を経由しないインターネット接続が可能となり、学外者が学内認証を回避することで容易にインターネット接続できる環境提供が実現された。SINET5 への対応を平成 27 年度から 28 年への流れで明記すべき事案である。このような環境向上を受けて、現行 NS 以上のサービス向上を図るため、次期 NS 構築ではデータセンター活用という文科省の意向にも配慮し、より強靱かつ柔軟性の高いネットワーク構築を、後藤田先生、山下氏、末廣氏を中心に学内委員各位のご理解ご支援の基に進めており、次年度の報告では紹介できると期待している。

5. 端末機器認証サービス

持込み PC が増え、スマホが主流になる状況はますます常態化し、機器認証作業は煩雑化する一方である。現在、IPv4 ベースの機器認証・アドレス付与が中心であるが、既取得の IPv6 アドレスの有効活用なども今後の検討事項である。

6. あとがき

現行 NS 導入後の世代交代は前述の通り。現在、4 キャンパス連携体制を構築でき、運用においても連携(毎月開催のスタッフ会議では緊密な情報交換可能)できる状況となった。しかし、機動性を重視すれば、人的制約は未解決事案とも言える。各位のご理解・ご支援を願うばかりである。

香川大学の教育システム

～平成 27 年度報告～

林敏浩とゆかいな仲間たち

T. Hayashi and his lovely buddies

(香川大学総合情報センター・情報グループ)

1. まえがき

総合情報センターは 2012 年度にコンピュータシステムのリプレースを実施した。特に教育システムの学生サービスに大きな変化があった。学内設置の学生メールサーバを廃止して Gmail を利用する運用形態に移行した。また、プリンタも課金制度に基づくオンデマンドプリンタサービスへ大きく舵を切り、これらについては平成 26 年度 FD で報告した。本稿は平成 27 年度の教育用サーバ・端末などの状況報告の観点から、特に LMS (Moodle), 教育用 PC, JGN-X について報告する。

2. LMS (Moodle)

香川大学は「香川大学 Moodle」と呼ぶ学内用 LMS と四国の e-Learning 連携プロジェクト用の学外用 LMS が運用されている。両 LMS とも動画コンテンツをコース内に直接保持して疑似ストリーミング配信できるが、配信負荷軽減のために動画配信用 Helix サーバを導入したが、ライセンスなどの問題で運用方法の見直しが発生した。このため、動画配信サーバ RED5 の導入が検討された。

平成 27 年 3/17～3/18 に RED5 の導入試験を開始した。この事件は継続的に行われ、5 月に導入試験成功となり導入に向けて前進した。実際は、Helix サーバが利用できる限りは延命するという考え方で、6 月から来たるべき Xデー (Helix サーバがダウンまたは不具合発生して利用できなくなる) に備えてスタンバイ状態で運用を開始している。

3. 教育用 PC

香川大学は Windows 端末を総合情報センター、図書館、各キャンパス教室に配置している。毎月故障状況報告を総合情報センタースタッフ会議などで報告しているが、平成 27 年度は 4 月～9 月まで教育用 PC 関連の故障報告はなかった。夏休みの 8/10～8/21 の期間に幸町教育用 PC の全台特別点検を実施した。10/2 に教育用 PC マウスの不良が久しぶりに報告され交換にて復旧したが、その後、故障報告が増え、それに伴い復旧対応も増えた。なお、平成 28 年 1, 2 月は教育用 PC 関連の故障報

告はなかった。パソコン端末については、2012 年度にコンピュータシステムのリプレースからの経年劣化 (故障など) が増加すると予想される。

4. JGN-X

JGN-X については、総合情報センターで窓口一元管理している (平成 27 年度現在、窓口は著者 (林敏浩教員))。平成 27 年 4 月に JGN-X は 2015 年度で終了見込みの一報が入り、JGN-X の継続事業はないかもという未確定情報などが参考情報として総合情報センタースタッフ会議で報告された。その後、10 月に JGN-X 各プロジェクトにヒアリングがあり、最終的には次期 JGN が運用されることになった。しかし、導入側の遅れが発生し、その利用開始は平成 28 年 7 月頃となった。

この報告の範疇を超えるが、6 月の当初 JGN 利用予定の防災関係の利用イベントは SINET を利用して実施された。これは、防災訓練シミュレータ (工学部 1 号館 11 階に設置) の活用拡大を目指し、同シミュレータのデータ伝送実験の検証を行うものであった。その伝送実験は成功し、今後の次期 JGN 利用にはずみのつく結果となった。

5. その他

毎月の総合情報センタースタッフ会議では教育システムとして、代表的なサーバシステムについても状況報告しているが、ストリーミングサーバと遠隔会議/講義システムは特に問題なく 1 年間運用できた。

平成 27 年度末に教育学部 303 教室にアクティブラーニング用設備が導入された (主担当: 修学支援グループ)。wivia + iPad を中核とした電子黒板的システムとなっており、このような本センター以外の部局導入のシステムについても、総合情報センターとして試験的に側面支援体制をとった。

最後に、平成 27 年度の非常勤講師の授業用アカウント付与のための申請は 0 件であった。総合情報センターサービスとしてはマイナーな部類に入ると考えるがこのようなサービスも継続している。

総合システムについて

～ 学認対応と UPKI 証明書発行状況 ～

後藤田 中
N.Gotoda

(香川大学総合情報センター)

1. UPKI 構築における証明書と学認の位置づけ

平成 17 年度より, NII(国立情報学研究所)を中心に大学や関連機関の連携を推進する UPKI(全国共同電子認証基盤)の構築が進められている。一例として, NII によるオープンドメイン認証局の設置, それに基づく, クライアント・サーバ・コードサイン等電子証明書(以下: UPKI 証明書)発行サービスがあげられる。うちサーバ証明書を認証サーバに活用し, SSO(シングルサインオン)を実現した学認(学術認証連携)の加盟校も年々増加している。通常, 認証連携が備わった統合システムによって, ユーザは学内外に拘らず, 最小限の認証手続きで, セキュアな情報にアクセスできる。こうした“セキュリティ透過性”が確保されることにより, 高いレベルの相互情報発信・サービス共有が維持される。ここでは, 本学における統合システムの状況として, 学認に対する本学の状況に加え, 認証連携で欠かせないサーバ証明書の発行のうち, UPKI 証明書の学内における発行状況について報告する。

2. SSO の仕組みと今後の学認対応について

学認における SSO は, SAML(Security Assertion Markup Language)2.0 に基づく Shibboleth 認証によって実現されている。本学では, 現在, 学認に対応していなが, 同じ Shibboleth 認証の技術を用いて, 既に四国内の連携大学とのフェデレーションを行っている。具体的には, 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国⁽¹⁾において, 連携大学と調整に基づき, 大学教育の共同実施(e-Learning による科目提供)に活用している。各連携大学が個々に設置している LMS (Learning Management System) “moodle” は, 自大学から提供される各科目コンテンツ(収録映像ファイル等)がそれぞれ設置され, 自大学だけでなく他大学の学生もアクセスする。ここで, 香川大学も含み, 各大学の LMS は, これら他大学の学生に対し, 認証連携でアクセス性を高めている。具体的には, 所属大学のアカウント一つで, 各大学の Moodle にログインできる環境を学

生へ提供し, LMS 毎に個別のアカウント発行を必要としない。

受講者のアカウントである学生の ID や Password は, 受講者が所属する各大学に分散管理されているため, 香川大学が設置・提供している DS (Discovery Service)のリダイレクトを通じて, 各大学の同情報の窓口である IdP(Identity Provider)から LDAP で参照される。このように, IdP における認証を通じて, SP(Service Provider)である moodle へアクセス可能となる仕組みである。

本学では, 平成 30 年度 3 月に実施予定の総合情報センターコンピュータシステムのリブレイスにおいては, 学内要望により学認対応が検討される可能性がある。今後, 対応を行う場合は, その準備として, NII に対するテストフェデレーションの申請, 仮アカウントによる検証を経て, 本番である運用フェデレーションの申請対応を行うことになる。

3. 信頼性を高めるために必要となる証明書設置

SSO 可能な SP 用のサーバを含め, 学内から発信・共有されるあらゆる情報の信頼性を高めるため, 証明書の存在は欠かせない。近年では, ユーザを狙ったいわゆる“水飲み場攻撃”の過程において, 正規のサイトを模倣した偽サイトを外部の攻撃者が用意し, ユーザに意図せずマルウェアをダウンロード・感染させようとする事例も見られる。こうした被害を未然に防ぐ上で, 正規サイトを管理する側からは, 証明書の設置を通じて, ユーザが閲覧するサイトのドメインや管理者の実在性について, “本物である”ことを確認できる状態にすることは重要である。ここで, 従来からベリサインやグローバルサインといった商用由来の認証局から証明書を取得する場合, 高額な費用を申請者が個別に負担する必要があった。この場合, 学内でサーバ証明書が設置される Web サイトは, 主要な部分に限られ, 例えば, 多く存在する研究室サイト等では, 費用の面からも設置が難しくなっ

ていた。そこで本学では、UPKI 発行サービスを利用することで、従来と比較し、証明書取得数に関係なく、コスト的に安価(一定)な形で証明書取得が可能となった。

3.1. 証明書自動発行プロジェクトでの発行状況

本学は、UPKI 発行サービスに先行し、オープンドメイン証明書自動発行プロジェクト⁽²⁾に参加した。対象ドメインは、「kagawa-u.ac.jp」である。2009 年 7 月から 2014 年 12 月までの約 5 年半、52 件の証明書の申請・発行が行われた(表 1)。うち証明書の更新等による、同一 FQDN(Fully Qualified Domain Name)申請分の重複を除くと 31 件であり、学内では同件数分のサーバで証明書が設置されたことになる。なお、同プロジェクトは、2015 年 6 月末に終了している。その後、本学では、後述する次期サービスが 2015 年 1 月に開始されたことにより、各証明書は、前倒しで移行が完了している。なお、新しいサービスにおける証明書のプロファイルが SHA-2 の場合、25 ヶ月有効となっている。

表 1 2009 年～2014 年の UPKI 証明書発行状況

	発行件数
2009 年	7 件
2010 年	2 件
2011 年	7 件
2012 年	12 件
2013 年	11 件
2014 年	13 件
発行総計	52 件

3.2. UPKI 証明書発行サービスでの発行状況

先行する UPKI オープンドメイン証明書自動発行プロジェクトでは、無償利用であったが、新しいサービス⁽³⁾では、有償である。従来同様、契約はドメインごとに必要であり、追加ドメインを申し込む場合は、別料金が発生する。一方でドメインが同一であれば、任意の FQDN で追加料金なしに発行が可能となっている。同サービスの利用料は、CiNii(NII 学術情報ナビゲータ)⁽⁴⁾と同じく学内構成員(常勤の教員・研究者)の規模に基づいており、香川大学は、2015 年 6 月当時、約 600 人であり、6 万円/年の契約に該当する(2015 年 6 月にサービス利用料の請求が行われている)。2014 年 12 月に同サービスの第 1 回の申込みを行い、表 2 に示す通り、1 月下旬より、順次新しい証明書が発行なされ、

2016 年 6 月までに総計 61 件の発行となっている。サーバ証明書が 60 件(新規:54 件, 更新 6 件)であり、コード署名証明書も 1 件の発行があった。なお、クライアント証明書発行は 0 件であった。

表 2 2015 年 1 月～2016 年 6 月までの発行状況

	発行件数
2015 年	48 件
2016 年 1～6 月	13 件
発行総計	61 件

4. 証明書発行に関する課題とその改善について

4.1. 申請者の各種負担とマニュアル整備

従来、例えばサーバ証明書を申請する場合、対象サーバのドメイン名から、鍵の暗号方式等の指定まで申請者が行う。これらをプロファイルとした TSV ファイルを、文字エンコーディングや文字種も含め厳格なフォーマットで直接記述し、申請前に用意する必要がある。この過程で、申請者は、事前に NII から提供される記述方法を熟読する必要があった。このため、申請者は、深い前提知識を必要とし、自ら全ての準備を行う必要があるため、申請手続きの入口までの敷居が非常に高くなっていた。そこで、総合情報センターの Web サイトにおいて、申請上、固定された情報を例示し、証明書の発行申請方法に加え、サーバにおける証明書設置に関するマニュアルも整備した。これにより、申請者に分かり易い情報提供の環境を整えた。

5. まとめ

現在の本学における学認対応の状況と UPKI サーバ証明書等の発行状況について報告した。特に、2015 年度は、サーバ証明書の発行申請に関する総合情報センターの Web サイトコンテンツやマニュアルの整備を行った。これにより、今後証明書発行申請がユーザにとって、より身近になり、結果的に本学における証明書の発行増につながることを願いたい。

参考文献

- (1) 知プラ e, 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国, <http://chipla-e.etc.kagawa-u.ac.jp/> (アクセス日:2016 年 7 月 28 日)
- (2) UPKI イニシアチブ, NII, <https://upki-portal.nii.ac.jp/> (アクセス日:2016 年 7 月 28 日)

- (3) 電子証明書発行サービス, NII, <https://certs.nii.ac.jp/> (アクセス日:2016年7月28日)
- (4) CiNii, NII, <http://ci.nii.ac.jp/> (アクセス日:2017年7月28日)

平成 27 年度 ヘルプデスク 報告

太田 芽衣

M.Ota

(香川大学 総合情報センター)

1. はじめに

本稿では、平成 27 年度にヘルプデスクに寄せられた相談件数、内容、その比率を報告いたします。

2. 寄せられた質問件数

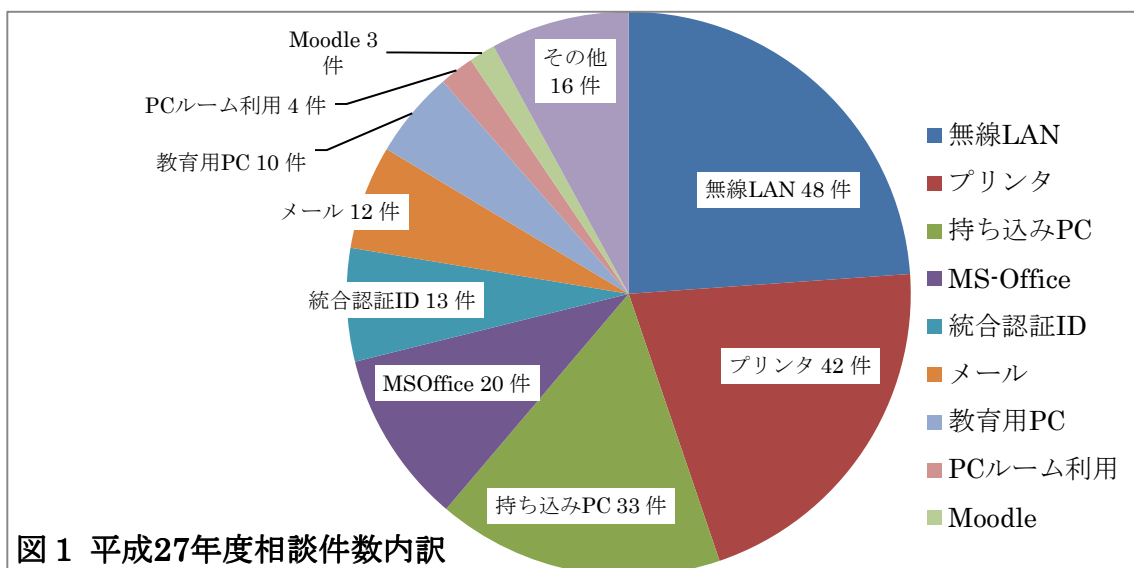
平成 27 年度は 201 件の相談が寄せられました。これを一年のヘルプデスク受付時間で考えますと、平均して一日に 1 件強は利用者からの相談を受け付けていることになります。

なお、第 10 号で報告した過去 3 年分の報告件数は平均 38 件であり、大幅な増加のように思われますが、これは当時の報告が夜間ヘルプデスク窓口寄せられた質問のみの報告であったためです。平成 26 年度より、昼間の窓口へ寄せられた質問も計上するようになり、昼間の職員と夜間の学生スタッフ間で寄せられた質問・情報の共有を図っています。これにより、全体的なヘルプデスク対応の向上に繋がっています。

3. 質問の内容および比率

この相談件数の内、166 件が学生からのものであり、残りの 55 件が教職員からのものです。ヘルプデスクは平成 23 年より主対象を学生において開始されましたが、現在もその主旨が反映されているといえます。

図 1 に、寄せられた相談件数をグラフに示しました。前述しましたとおり、ヘルプデスクの相談者は学生が多く占めています。無線 LAN、プリンタなど、彼らが利用するサービスが多い割合になっています。また、香川大学は平成 26 年度 7 月にマイクロソフト包括契約を締結し、本学生向けには最新版 Office(Office365)が無償提供されるようになりました。平成 27 年度入学生が生協にて購入する生協 PC は Office 製品が付属していないモデルになり、これに伴って、インストールや利用についての問い合わせが前年に比べ大幅に増加しました。



幸町キャンパス報告

山下 俊昭
T.Yamashita

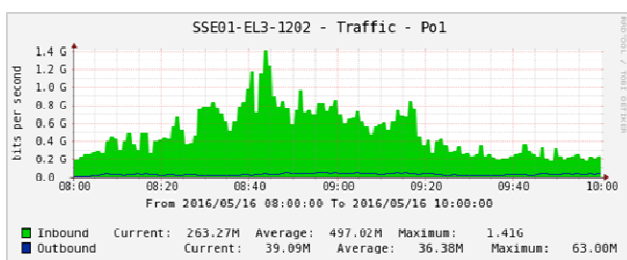
(香川大学学術・地域連携推進室情報グループ)

1. SINET5 への移行

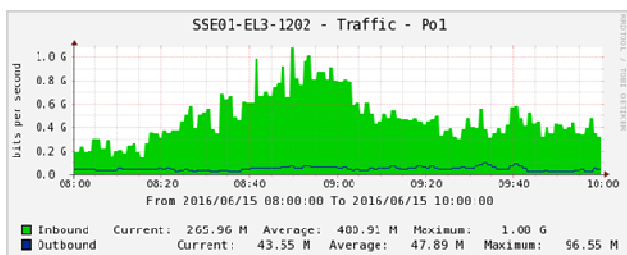
2011 年度から稼働が開始した SINET4 は 2016/3 をもって運用が終了し、2016/4 から SINET5 が新たに稼働を始めた。これに合わせて本学でも SINET5 への移行が必須となり、2015 年度に SINET5 用アクセス回線を調達し、2015/3/28 に切替作業を実施し SINET5 への移行が完了した。これにより SINET4 では帯域が 2.4Gbps であったのに対して SINET5 では 20Gbps(10Gbps×2)となり、より多くの帯域を使用することが可能となった。また、SINET5 は全国の各都道府県に国立情報学研究所の機器を設置するデータセンターが設けられており、このデータセンター間でフルメッシュ構造がとられている。仮に 1 経路に障害が起きたとしても即座に迂回経路に切り替わるよう冗長性も確保されたバックボーンとなっている。SINET の利用帯域については年々増加傾向にあり、2007 年ごろには数十 Mbps の利用量であったのが今では 1Gbps を超えることが珍しくなくなってきており、約 10 年で数十倍になっていることが確認できている。

利用状況

(2016/5/16 AM8:00～2016/5/16 AM10:00)



(2016/6/15 AM8:00～2016/6/15 AM10:00)

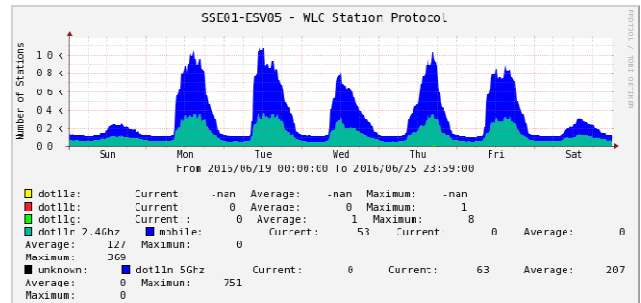


2. 無線 LAN について

幸町キャンパスでは平成 21 年度から集中型無線 LAN の整備を行い、ほぼ全域で利用できるようになっている。2015 年度までは無線 LAN コントローラは 5 台(旧機種 4 台、新機種 1 台)にばらけた状態であったが、旧機種が 2016/6 でサポート終了となるため、新機種のライセンスを購入し、5 台を新機種の 1 台にまとめた。また、従来から幸町キャンパスで利用されていた SSID SAIWAI について暗号化方式に WEP を利用しているなどのセキュリティ上の懸念が以前からあったため、2016/3 末で停止し、WPA2 を利用した強固な暗号化方式の KAGAWA-UNIV に統一した。無線 LAN はスマートフォンやタブレットの普及に伴い、利用者は毎年右肩上がりとなっている。

利用状況

(2016/6/19～2016/6/25)



順位	無線 AP 名	設置場所	平均
1	SSA03-EWL01	南 1 号館 3F E31 講義室	32
2	NSL02-EWL04	図書館 3F 北側閲覧室	23
3	SSF02-EWL01	南 6 号館 2F J3 講義室	23
4	NSK01-EWL03	大学会館 1F 食堂	19
5	NSL02-EWL07	図書館 2F ラーニングコモンズ	18
6	NSJ03-EWL03	大学本部 3F 廊下	17

7	SSA02-EWL01	南 1 号館 2F E21 講義室	16
8	NSK01-EWL02	大学会館 1F 食堂	14
9	NSO02-EWL01	オリーブスクエア 2F 学生ラウンジ	12
10	SSA01-EWL01	南 1 号館 1F E11 講義室	12

無線 LAN について本学の教職員、学生に対しては上記の KAGAWA-UNIV で接続しているが、CONFERENCE という SSID も用意している。これは本学の機器を経由するものの Layer2 レベルでトラフィックを分断し SINET ではなく一般の商用回線で通信するものである。本来、緊急時用のものとして用意したものだが、本学で学外者を招き入れた催し物などの際に学外者用の回線としても提供しており、Web 認証を有効にしている。これを利用するには申請が必要であり、現状で年間 20 件程度の申請があり、緊急時だけでなく日常的にも有効利用ができています。

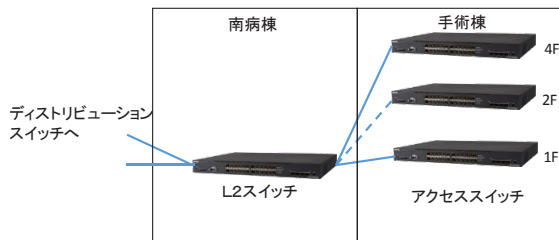
医学部キャンパス報告

高橋 岳水¹ 川田 延枝¹ 多田 志乃舞¹
T.Takahashi¹ N.Kawada¹ S.Tada¹
(香川大学医学部 情報ネットワーク管理室¹)

1. はじめに

情報ネットワーク管理室では医学部キャンパスに於ける情報セキュリティ対応と学部ネットワークの整備などを担当している。

平成 27 年度の活動について報告する。



2. 情報セキュリティ講習会

医学部教職員対象の情報セキュリティ講習会を平成27年7月14日に実施した。情報ネットワーク管理室長より「サイバー攻撃対策」や「標的型攻撃メールの見分け方」について事例などを交え説明を行った。講習会には教職員約300名が出席し、業務などの都合で欠席した教職員についてはビデオ配信による受講を実施した。

3. 附属病院再開発対応のネットワーク整備

医学部附属病院は、再開発事業に平成 23 年度から着手しており、事業の進捗に合わせて附属病院内の学内ネットワーク整備を進めている。

3.1 手術棟新営対応

平成 27 年 12 月に新営の手術棟が完成し、平成 28 年 1 月 4 日から稼働した。手術棟は免震構造の地上 4F 建てで、1F 放射線部、2F 材料部、3F 手術室 8 室が配置されている。

手術棟の学内ネットワークは隣接する南病棟のL2スイッチ配下として整備した。アクセススイッチを1Fと4Fに設置し、各スイッチが2フロアに対応している。アクセススイッチは今後の増設要求に対応できるよう2Fにも設置可能な構成としており、L2スイッチと各アクセススイッチ間は10GBASE-SRで接続している。(図1) また、アクセススイッチでは認証を実施し、不正アクセスを防止している。

図 1 手術棟のネットワーク構成

3.2 既設建物の改修工事対応

附属病院再開発では平成 27 年度から既設建物の改修工事に着手している。工事はエリア単位で更に工事期間をステップに分けることで外来診療や入院、病院業務に影響が出ないように進められている。学内ネットワークも工事の進捗に合わせて対応しており、仮設スイッチを 11 箇所配置しネットワーク環境を維持している。

改修工事が完了したエリアについては、老朽化したアクセススイッチを以下の基本構成により更新している。(図2)

- ① ディストリビューションスイッチとの10G化
- ② スイッチング容量、パケット処理性能の大幅な向上
- ③ スタック構成とリンクアグリゲーションによる信頼性向上
- ④ EPS 内の専用ラックに設置し接続機器はスイッチ認証により不正アクセスを防止（図3）
- ⑤ 大規模災害などに備え自家発電設備からの電力供給対応

既設建物では東病棟の改修工事が平成 28 年 2 月に完成し、5 月から稼働している。

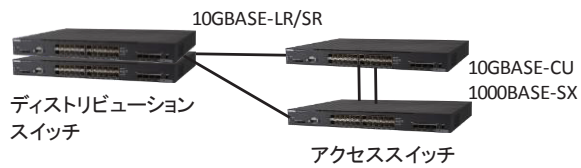


図 2 改修工事後の基本構成



図 3 再開発後の機器設置環境

4. おわりに

サイバー攻撃の脅威は増加を続けており、高度かつ巧妙化している。今後も情報セキュリティ対策を強化すると共にセキュリティ教育を推進する。

附属病院の再開発事業は工事がピークを迎えており既設建屋の改修が進められる。改修中も診療や業務は継続されるため、影響が出ないよう整備を進める計画である。

部門紹介

総合情報センター部門再編について

最所圭三
K.Saisho

(香川大学総合情報センター長)

1. 背景

近年の標的型メールに代表される従来のセキュリティ防御では対応できない脅威への対応や、香川大学が中心に行っている四国の国立 5 大学が相互に連携して行っている e-Learning のサポートなどへの対応が総合情報センターに求められるようになった。また、スマートフォンやタブレットの普及などにより、ユーザーへのサポートも多様化しなければならなくなった。これらの変化に対応するために総合情報センターでは業務の見直しに加え部門の再編を行った。

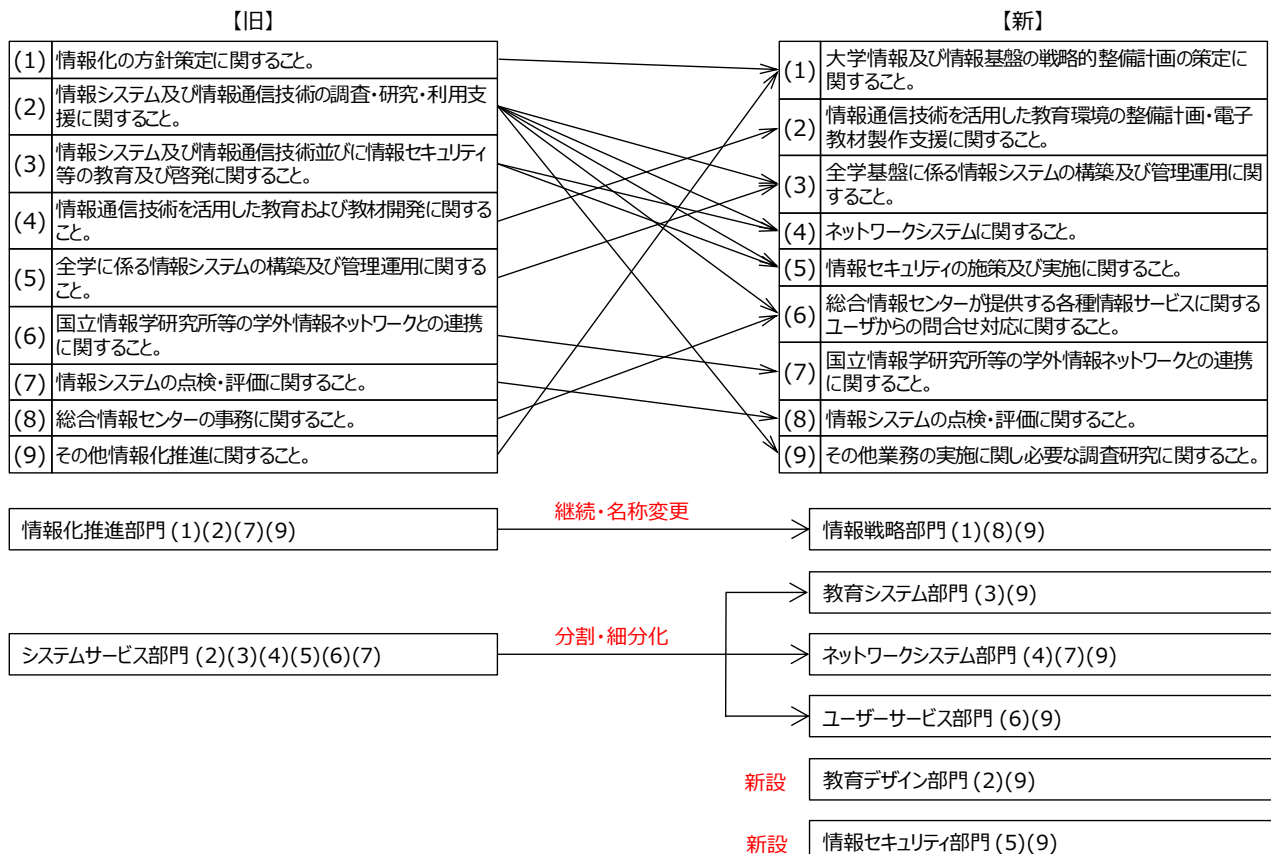
2. 概要

表 1 に新旧の業務内容と部門の対応および各部門の担当項目を示す。業務内容に関しては、旧 (2) の内容が広範にわたっていたものを細分化し、他

の項目と統合した。また、情報セキュリティに関しては新 (4) として他と独立させ、新 (2) として e-Learning でサポートする範囲を明確にした。また、新 (6) ではユーザーサポートを明記した。

業務内容の見直しにともない、昨年度までの情報化推進部門とシステムサービス部門の 2 部門から 6 部門に再編成した。情報化推進部門は、業務を継続するが、名称を現状に合わせた情報戦略部門に変更した。システムサービス部門は、分割・細分化し、教育システム部門・ネットワークシステム部門・ユーザーサービス部門とし、新たに教育デザイン部門・情報セキュリティ部門を設置した。図 1 と図 2 にそれぞれ新旧の組織図および他の全学組織との関連を示す。各部門の主な業務は次のとおりである。なお、新規の教育デザイン部門・情報セキュリティ部門および機能強化を図つ

表 1 総合情報センターの業務および部門再編



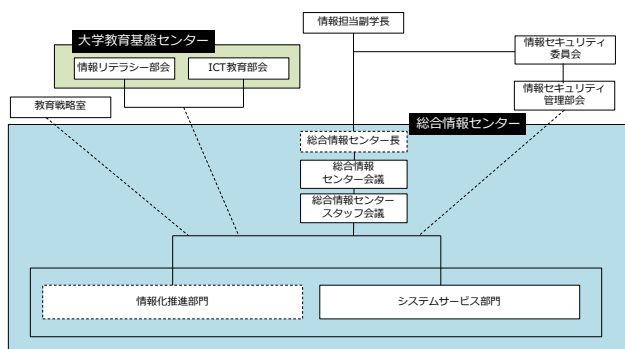


図1 総合情報センターの組織図（旧）

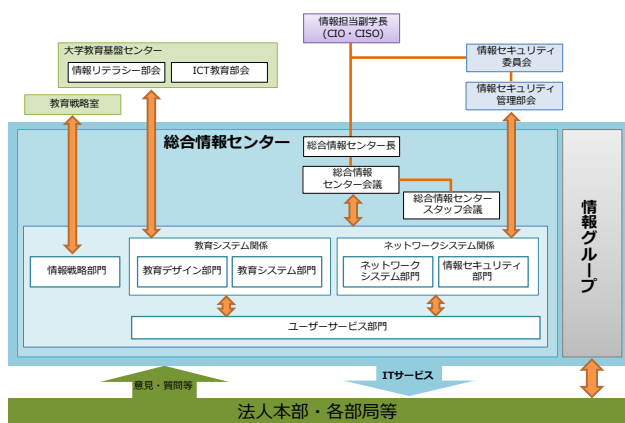


図2 総合情報センターの組織図（新）

たユーザーサービス部門については、詳細を別立てで紹介している。

情報戦略部門

香川大学では総合情報センターの情報システムとネットワークシステムの他に事務系の情報システムなどがある。本部門では、これらを含めた大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関することを扱う。導入したシステムの点検・評価を行うことでよりよいシステムの構築に役立てる。

教育デザイン部門

本部門は、e-Learning を積極的に進めるために新設されたもので、情報通信技術を活用したe-Learning 環境の整備計画や、そこで用いられる電子教材製作の支援に関することを扱う。

教育システム部門

総合情報センターの情報システムだけでなく情報戦略部門が必要であると判断した全学の情報システムの構築および管理運営に関することを扱う。

ネットワークシステム部門

総合情報センターが提供するネットワーク構築および管理運営や、国立情報学研究所等の学外情報ネットワークとの連携に関することを扱う。

情報セキュリティ部門

本部門は、近年のセキュリティ脅威に対応するために新設されたもので、情報セキュリティの施策及び実施に関することを扱う。

ユーザーサービス部門

ユーザーの窓口としてのヘルプデスクとして運営されていた役割をより広範なサービスを行うためにユーザーサービス部門として独立させた。本部門では、総合情報センターが提供する各種情報サービスに関するユーザーからの問合せ、ユーザーに対するサービス状況の取得およびユーザー管理に関することを扱う。

3. 学内組織との関連について

これまで曖昧であった総合情報センターと学内の関連組織との関連を明確にした。情報戦略部門は教育戦略室、教育デザイン部門と教育システム部門は大学教育基盤センターの情報リテラシー部会と ICT 教育部会、情報セキュリティ部門は全学の情報セキュリティ管理部会と連携しながら、大学構成員に必要な IT サービスを提供する。

4. 構成員

総合情報センターには、以下のスタッフが配置されており、各部門を兼務して行っている。

専任教員	3名
併任教員	4名
併任職員	2名
技術補佐員	5名
事務補佐員	1名

また、事務組織である情報グループには、以下のスタッフが配置されており、総合情報センタースタッフと協力し、各部門を兼務して行っている。

職員	8名
事務補佐員	2名

教育デザイン部門紹介

村井礼, 藤本憲市, 岡本裕之, 裏和宏, 金山まい, 田所育久子, 豊嶋尚子, 山口明日香
H. Murai, K. Fujimoto, H. Okamoto, K. Ura, M. Kanayama, I. Tadokoro, N. Toyoshima, A. Yamaguchi
(香川大学)

1. 教育デザイン部門の紹介

教育デザイン部門は、総合情報センターの業務の中の主に情報通信技術を活用した教育環境の整備計画・電子教材製作支援に関する業務を担当する(香川大学総合情報センター規程第3条(2))ため、平成28年度より部門再編された。教員2名(併任)、事務職員6名(併任含む)で構成される。

2. 教育デザイン部門の業務

四国における二つの大学連携 e-Learning 教育事業(e-Knowledge コンソーシアム四国事業、知のプラットフォーム形成事業)を支える学内組織として、表1に示される業務を所掌する。

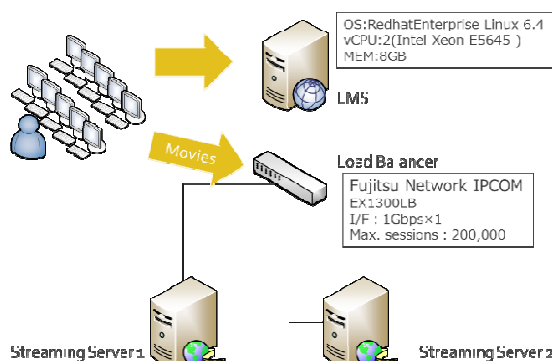


図1 香川大学における大学連携用 e-Learning 環境

2.1. ICT 活用教育環境の整備

e-Learning システム (LMS) の運営に関する業務を行っている。図1に香川大学における大学連携用 e-Learning 環境を示す。LMS 上に e-Learning コースを設定し、コンテンツ配信、アンケート集

計、アクセス数の管理と共に、受講者の抽選、質問対応等の業務がある。平成28年度は、前後期あわせて10科目の e-Learning コンテンツを配信している。

また、複数大学の学生が履修するため、サーバ及びネットワークの負荷対策の検討のため、LMS へのアクセス数の管理も行っている。



図2 e-Learning スタジオにおける収録風景

2.2. 電子教材の製作支援

LMS 上で配信する e-Learning 授業用の電子教材の製作を支援している。図2に示されるとおり、授業動画の収録は主に e-Learning スタジオ(総合情報センター2階に設置)で行われている。平成29年度から香川大学ではクォーター制を導入することに伴い、既存科目の分割や、新規開設科目のコンテンツ制作等、合計23科目の e-Learning コンテンツの制作支援を行う予定である。

表1 平成28年度活動計画

e-Learning 配信	コンテンツ制作	遠隔会議	その他
前期5科目 後期5科目	クォーター制導入に伴う分割 20科目 主題C基礎科目新設 1科目 知プラe科目新設 2科目 他、地域人材育成コンテンツ etc.	企画委員会 4回 運営委員会 1回 シンポジウム 1回 スキルアップ研修会 2回 外部セミナー 1回 他、連携大学間打合せ etc.	広報 ・ウェブページ更新 ・ニュースレター発行 ・メルマガ発行

情報セキュリティ部門紹介

後藤田 中¹ 福家 隆² 高橋 岳水³ 川口 政秀² 土居 敬典⁴ 山下 俊昭² 末廣 紀史² 青木 有香²
 N.Gotoda¹ T.Fuke² T.Takahashi³ M.Kawaguchi² Y.Doi⁴ T.Yamashita² N.Suehiro² Y.Aoki²
 (総合情報センター¹, 情報グループ², 医学部情報ネットワーク管理室³, 農学部会計係⁴)

1. 情報セキュリティ部門の位置づけ

2016年4月に新たに誕生した情報セキュリティ部門は、増大するセキュリティ事案に対処するための部門である。現在、本学では、情報セキュリティ対策基本計画に基づく、全学的な施策の策定が進められている。情報セキュリティ部門は、その全学的なセキュリティ施策の実施部隊の位置づけである。本学では、情報セキュリティ委員会で決定された全学的な情報セキュリティ施策の骨子は、情報セキュリティ管理部会における具体的な情報セキュリティ施策の検討・決定を経て、総合情報センターへ実施依頼がかかる。ここで、当該部門は、施策として例えば、必要な機器等の選定や実際の運用も考慮したサービス導入を行うことになる。また、各部局に対して、情報セキュリティポリシーに基づく実施手順書の策定または準用を促すほか、セキュリティ監査などを実施する役目も持つ。

2. 平成28年度計画の概要

情報セキュリティ施策及び実施として、従来の内容に加え、本年度は以下の内容を計画している。

- (1) 学内セキュリティ情報の発信強化
 - セキュリティに関するWebサイトの整備
- (2) セキュリティ教育の強化
 - 全学的なe-Learningの実施
- (3) セキュリティ製品・機器の導入
 - 事務系への暗号化ソフトの導入
 - F/W機能の強化

また、その他業務の実施に関し必要な調査研究として、本学への攻撃状況等に関する分析を行う。

3. 平成28年度計画における現在までの実施状況

はじめに、(1)については、従来メールのみの注意喚起などにとどまっていたが、図1に示すとおり、情報セキュリティ管理部会のWebサイトの整備を行い、学内構成員がブラウザを通じて必要な情報へいつでもアクセスできるよう整備を行った。

また、(2)については、全教職員が受講できるよう、学内のLMSであるmoodleにセキュリティ教育のコースを設けた上で、図1のHPから受講案内を行っている。



図1 整備した情報セキュリティ管理部会のHP



図2 F/W 等のログからのセキュリティレポート

さらに、(3)については、2016年6月下旬にF/Wにサンドボックス機能を導入し、未知のマルウェアに対する被害を最小限にとどめるよう対策を行っている段階である。また、本学への攻撃状況の分析として、総合情報センター会議の部門報告において、図2に示すセキュリティレポートを毎月添付し、本学に対する脅威の状況を示している。

部門としては、今後セキュリティ強化が利便性低下や運用面での負担に直結しないよう十分な配慮を行いながら、施策及び実施に務めていきたい。

ユーザーサービス部門紹介

最所 圭三¹, 近藤 まゆみ², 立石 晃一², 前田 由佳², 山下 俊昭²,
K.Saisho¹, M.Kondo², K.Tateishi², Y.Maeda², T.Yamashita²,
末光 京子², 青木 有香², 太田 芽衣³, 豊嶋 尚子³
K.Suemitsu², Y.Aoki², M.Ota³, N.Toyoshima³

(香川大学総合情報センター/工学部¹, 香川大学 学術・地域連携推進室 情報グループ²,
香川大学総合情報センター³)

1. ユーザーサービス部門の紹介

ユーザーサービス部門は、従来のヘルプデスクを母体として独立させたものである。ユーザーサービス部門は、従来のヘルプデスクの他にユーザーに対するサービス状況の取得およびユーザー管理に関することを扱う。

現在、教員1名(併任)、事務職員8名で構成している。

2. ユーザーサービス部門の業務

ユーザーサービス部門では以下の業務を行う。

ユーザーへの情報提供

ユーザーからの総合窓口(一次受付)を行い、ホームページや刊行物により、学生・教員・職員への情報提供を行う。

ヘルプデスク

8:30~17:00 は、通常窓口で、15:30~21:00 は、学生スタッフをヘルプデスクに配置し、ユーザー対応を行う。

ユーザー管理

統合認証、メール、財務、人事、全学の入退出システム、グループウェアのID・パスワードの管理やトラブル対応を行う。

ユーザーの行動の分析

サービス向上のために、ヘルプデスクへの問い合わせ内容、ホームページへのアクセス状況、学生のメールサービスとして提供している gmail の利用状況などを分析する。

3. 平成 28 年度活動計画

昨年度リニューアルしたホームページの QA の

更なる充実と Google Analytics によるユーザーの画面遷移の分析を行い、より早く正確な情報が提供できるようにホームページを改善していくこととしている。



写真1 総合情報センター総合窓口



写真2 ヘルプデスク

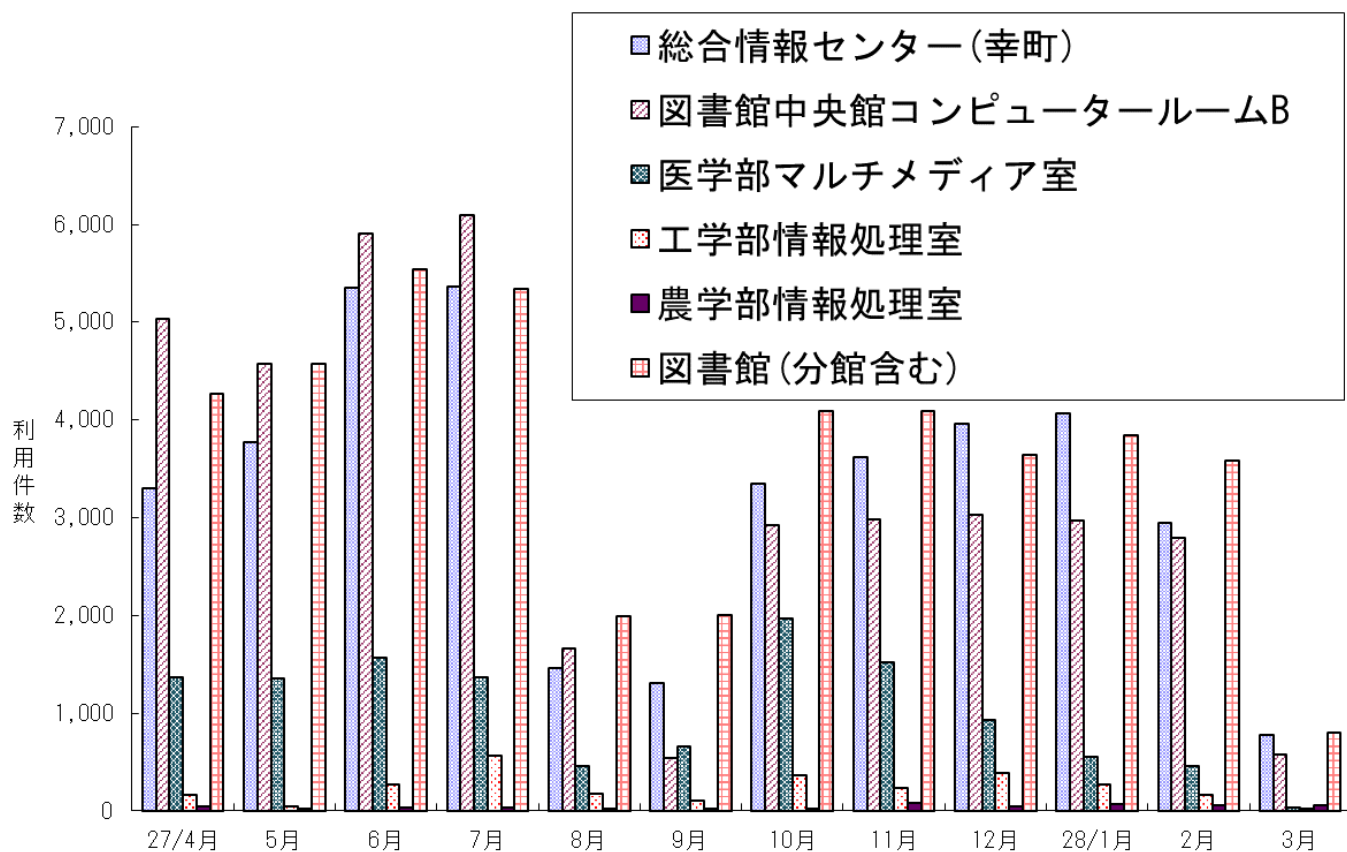


図1 リニューアルした総合情報センターHP

業務報告

平成27年度パソコン室利用統計

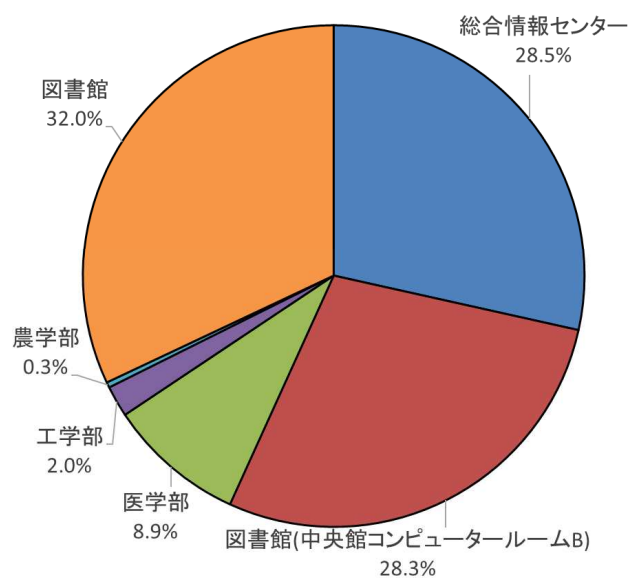
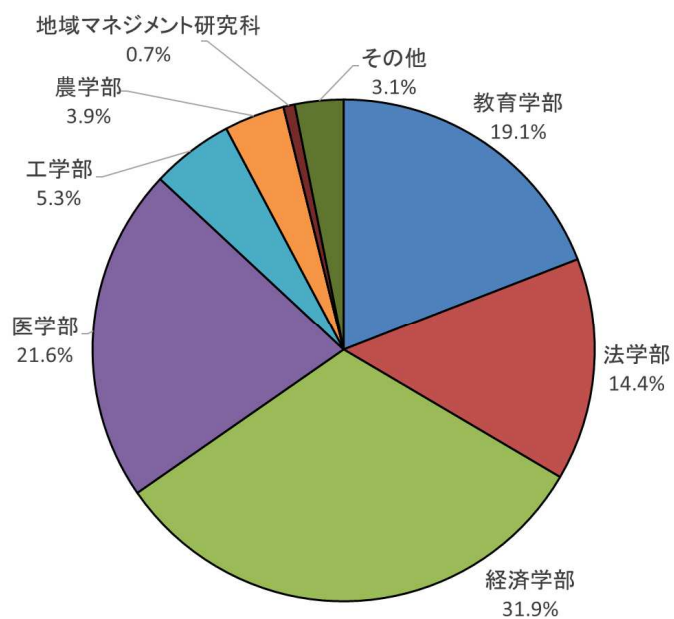
・月別利用件数(設置部局別)



・部局・部屋別利用率(利用件数)

利用者部局別

部屋設置部局別



○総合情報センター(幸町)

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	95	106	169	154	65	29	211	193	197	277	175	21	1,692
法学部	760	913	1,286	1,331	420	136	871	851	845	930	834	145	9,322
経済学部	1,992	2,390	3,344	3,262	743	508	1,804	2,263	2,458	2,632	1,790	442	23,628
医学部	145	106	141	170	126	281	188	89	111	86	31	150	1,624
工学部	93	125	144	96	33	8	87	122	75	61	57	6	907
農学部	12	15	10	16	6	1	4	6	6	4	4	1	85
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	119	47	178	248	15	7	5	3	3	0	0	2	627
その他	83	73	84	92	53	338	179	86	267	72	60	7	1,394
計	3,299	3,775	5,356	5,369	1,461	1,308	3,349	3,613	3,962	4,062	2,951	774	39,279

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	6,498	8,831	12,329	12,325	6,488	2,624	16,369	17,305	16,694	25,024	14,750	3,185	142,422
法学部	42,431	58,8999	75,979	86,844	23,679	6,936	51,316	58,361	63,036	72,903	64,387	13,405	618,176
経済学部	114,667	141,814	219,861	219,513	66,465	35,992	104,453	153,167	172,735	206,603	121,033	27,557	1,583,860
医学部	12,136	9,906	13,879	15,916	1,505	3,802	10,736	9,037	10,618	9,068	2,495	232	99,330
工学部	8,925	12,416	14,805	9,581	1,882	1,166	8,932	13,045	7,542	6,562	6,557	337	91,750
農学部	557	575	252	512	170	10	90	54	132	194	238	14	2,798
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	14,819	3,372	21,148	38,437	926	335	219	268	175	0	0	268	79,967
その他	42,944	41,327	46,811	53,175	29,099	36,662	23,401	28,603	34,294	31,066	34,372	244	401,998
計	242,977	277,140	405,064	436,303	130,214	87,527	215,516	279,840	305,226	351,420	243,832	45,242	3,020,301

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

○図書館中央館コンピュータールームB

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	1,458	1,214	1,610	1,953	633	3	1,393	1,418	1,457	1,443	1,621	210	14,413
法学部	1,287	860	1,405	1,192	420	3	344	341	278	319	254	68	6,771
経済学部	1,455	1,886	2,209	1,892	260	3	809	953	1,051	970	751	159	12,398
医学部	410	304	364	421	200	258	160	109	119	106	66	106	2,623
工学部	127	101	99	113	42	0	85	29	47	46	32	7	728
農学部	99	99	118	106	38	1	58	69	46	52	29	15	730
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	16	46	34	36	25	0	19	7	14	11	11	3	222
その他	187	58	66	387	45	279	56	61	19	29	29	12	1,228
計	5,039	4,568	5,905	6,100	1,663	547	2,924	2,987	3,031	2,976	2,793	580	39,113

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	79,997	79,923	111,274	148,527	55,119	412	80,827	116,723	120,245	119,316	150,538	20,762	1,083,663
法学部	59,593	57,182	107,999	96,572	35,091	133	34,442	30,820	22,442	29,251	22,309	6,633	502,467
経済学部	107,450	156,459	192,629	165,271	27,225	261	54,555	79,404	90,980	88,072	72,658	16,491	1,051,455
医学部	20,480	21,073	23,519	17,930	12,174	5,947	8,962	6,341	7,581	6,640	4,686	476	135,809
工学部	6,116	6,963	6,154	6,795	2,061	0	6,622	1,938	4,411	4,471	1,871	494	47,896
農学部	4,161	5,368	7,257	6,613	2,562	63	2,543	4,526	2,877	3,068	2,349	789	42,176
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	1,527	4,694	3,478	3,907	2,687	0	1,358	541	927	843	743	176	20,881
その他	6,629	6,047	5,693	9,924	9,635	1,660	6,365	13,466	1,646	2,062	1,747	3,550	68,424
計	285,953	337,709	458,003	455,539	146,554	8,476	195,674	253,759	251,109	253,723	256,901	49,371	2,952,771

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

○医学部

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	1,188	1,337	1,521	1,167	446	661	1,888	1,293	916	322	414	34	11,187
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	180	18	46	195	13	3	81	222	13	232	49	0	1,052
計	1,368	1,355	1,567	1,362	459	664	1,969	1,515	930	554	463	34	12,240

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	114,039	138,487	143,628	108,195	64,155	65,860	217,723	131,224	88,488	16,690	45,023	2,876	1,136,388
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	23,206	1,813	3,954	4,201	3,821	723	2,043	6,305	1,173	9,303	6,919	0	63,461
計	137,245	140,300	147,582	112,396	67,976	66,583	219,766	137,529	89,661	25,993	51,942	2,876	1,199,849

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

○工学部演習室

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	90	0	0	0	0	98	0	0	0	0	0	0	188
工学部	62	21	242	542	109	3	328	194	368	257	155	14	2,295
農学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	18	23	30	25	67	3	38	38	22	13	9	6	292
計	170	44	272	567	176	104	366	232	390	270	164	20	2,775

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	5,581	0	0	0	0	5,196	0	0	0	0	0	0	10,777
工学部	6,068	3,423	29,505	90,628	19,433	328	35,611	24,819	57,630	41,945	25,362	2,814	337,566
農学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2,195	3,689	4,298	2,882	10,042	56	2,997	3,131	2,657	1,840	1,128	41	34,956
計	13,844	7,112	33,803	93,510	29,475	5,580	38,608	27,950	60,287	43,785	26,490	2,855	383,299

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

○農学部情報処理室

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	6	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	41	53
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学部	33	17	28	35	25	13	19	28	40	65	52	13	368
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	0	1	0	0	0	1	0	1	0	6	0	14
計	44	17	29	36	25	18	20	76	41	65	58	54	483

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医学部	7	0	0	60	0	36	0	0	0	0	0	278	381
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学部	1,917	1,211	2,150	2,244	2,072	1,022	1,601	1,596	2,594	8,236	1,855	1,248	27,746
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	739	0	122	0	0	0	11	0	65	0	370	0	1,307
計	2,663	1,211	2,272	2,304	2,072	1,058	1,612	1,596	2,659	8,236	2,225	1,526	29,434

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

○図書館中央館コンピュータールームAおよび各分館舎

利用件数

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	1,059	1,037	1,359	1,359	462	221	887	831	833	983	999	220	10,250
法学部	406	401	533	500	180	141	346	317	231	318	246	123	3,742
経済学部	792	885	1,037	979	331	319	723	783	697	658	537	262	8,003
医学部	1,148	1,292	1,551	1,379	732	1,131	1,360	1,417	1,194	1,301	1,172	42	13,719
工学部	374	387	416	421	143	72	380	372	289	219	256	56	3,385
農学部	399	538	606	656	131	95	287	347	382	330	329	83	4,183
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	8	7	16	21	9	27	14	9	8	12	18	9	158
その他	84	28	18	23	7	2	96	19	14	22	22	3	338
計	4,270	4,575	5,536	5,338	1,995	2,008	4,093	4,095	3,648	3,843	3,579	798	43,778

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

延べ利用時間(分)

学 部	27/4	5	6	7	8	9	10	11	12	28/1	2	3	計
教育学部	48,444	67,612	89,776	103,257	36,104	19,398	50,088	60,379	70,098	94,738	105,144	17,786	762,824
法学部	24,930	22,005	32,039	36,143	13,943	14,126	25,855	26,958	17,882	28,271	23,217	10,143	275,512
経済学部	51,032	61,059	74,542	71,533	30,312	37,251	69,836	78,813	76,570	80,360	41,452	21,561	694,321
医学部	175,699	173,410	229,519	300,869	205,761	348,782	209,295	282,981	250,816	291,274	284,446	65,985	2,818,837
工学部	18,632	17,552	22,460	22,122	10,785	13,847	20,292	21,280	14,922	12,688	23,639	4,149	202,368
農学部	18,485	25,398	30,933	30,198	8,084	8,354	13,127	18,457	18,876	17,393	16,722	3,676	209,703
連合法務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域マネ	499	643	511	786	566	2,012	358	209	260	758	391	206	7,199
その他	4,656	1,835	1,274	876	258	110	1,095	1,979	599	2,855	919	639	17,095
計	342,377	369,514	481,054	565,784	305,813	443,880	389,946	491,056	450,023	528,337	495,930	124,145	4,987,859

連合法務：香川大学・愛媛大学連合法務研究科 地域マネ：地域マネジメント研究科

平成27年度総合情報センターPC利用実績

PCルーム1, 2, 3

		月	火	水	木	金
8:50 I	前	英語演習				
	後					
10:20 II	前	Communicative English I T (2)	知識処理			
	後	Communicative English I T (4)	計算機基礎			
12:00 III	前				Communicative English I M (2)	
	後				Communicative English I M (3)	
14:30 IV	前				情報システム論 個別演習	
	後	個別演習 プロゼミナール			個別演習	音声英語学Ⅱ
16:10 V	前	計量経済学Ⅰ			演習	
	後	計量経済学Ⅱ	心理学実験Ⅱ		演習	
17:50 VI	前			数学セミナー	統計学B 統計分析 情報リテラシー	
	後					
19:30 VII	前			数学セミナー	統計学B 統計分析 情報リテラシー	
	後					
備考		集中講義・講習会等 地域マネジメント研究科新入生PC利用ガイダンス, 消費者行動, 調査データ分析, 大学入門ゼミ, 情報リテラシーE, 論文剽窃ソフトを活用した研究不正防止対策ワークショップ, KadaPos講習会, 教育システム学会				

この表に記載の事項は、総合情報センターに申し出があったものである。

平成 2 7 年度総合情報センター P C 利用実績

図書館コンピュータルーム B

		月	火	水	木	金
8 : 5 0 I	前					
	後			データ解析論		
1 0 : 2 0 II	前			情報リテラシーL(2)		
	後			情報基礎Ⅱ	Intensive EnglishⅡ	
1 2 : 0 0 III	前		情報リテラシーJ(1)	情報リテラシーE(3)		
	後					
1 4 : 3 0 IV	前		情報リテラシーJ(2)		情報リテラシーL(1)	情報リテラシーE(4)
	後				情報リテラシーL(4)	
1 6 : 1 0 V	前	情報リテラシーE(1)	情報リテラシーE(2)			
	後	情報リテラシーL(3)				Communicative EnglishIVE10
1 7 : 5 0 VI	前					
	後					
1 9 : 3 0 VII	前					
	後					
2 1 : 1 0						
備 考		集中講義・講習会等 教育学部コンピュータガイダンス, 大学入門ゼミ, プロゼミ, 3年演習, 大学入門ゼミ, ファイナンスマネジメント, 数学セミナー, 学校図書館司書教諭講習, PCガイダンス, 図書館ガイダンス, 生涯学習センター公開講座, 科学実験, 教員免許状更新講習, 放送大学授業, 理科教育特論Ⅰ				

この表に記載の事項は、総合情報センターに申し出があったものである。

平成 2 7 年度総合情報センター P C 利用実績

農学部情報処理室 1, 2

		月	火	水	木	金
8 : 5 0 I	前					
	後					
1 0 : 2 0						
1 0 : 3 0 II	前					
	後					
1 2 : 0 0						
1 3 : 0 0 III	前					
	後					
1 4 : 3 0						
1 4 : 4 0 IV	前					
	後					
1 6 : 1 0						
1 6 : 2 0 V	前					
	後					
1 7 : 5 0						
1 8 : 0 0 VI	前					
	後					
1 9 : 3 0						
1 9 : 4 0 VII	前					
	後					
2 1 : 1 0						
備 考		集中講義・講習会等				

この表に記載の事項は、総合情報センターに申し出があったものである。

平成 2 7 年度総合情報センター P C 利用実績

工学部演習室（6 4 0 3）

		月	火	水	木	金
8 : 5 0 I	前				コンテンツ編集	
	後		環境情報解析学	プログラミング/ プログラミング II	機械設計 II	
1 0 : 2 0						
1 0 : 3 0 II	前			インターネット II	コンテンツ編集	
	後	マルチメディア処理論		プログラミング/ プログラミング II	暗号とセキュリティ	
1 2 : 0 0						
1 3 : 0 0 III	前		電子情報通信実験 I			
	後		計算機材料設計学	プログラミング/ プログラミング II	アルゴリズム演習	
1 4 : 3 0						
1 4 : 4 0 IV	前		電子情報通信実験 I	電子・情報工学 プログラミング	電子・情報工学 プログラミング	
	後		3次元製図	プログラミング/ プログラミング II	アルゴリズム演習	
1 6 : 1 0						
1 6 : 2 0 V	前			電子・情報工学 プログラミング	電子・情報工学 プログラミング	
	後		3次元製図			
1 7 : 5 0						
1 8 : 0 0 VI	前					
	後					
1 9 : 3 0						
1 9 : 4 0 VII	前					
	後					
2 1 : 1 0						
備 考		集中講義・講習会等				

この表に記載の事項は、総合情報センターに申し出があったものである。

平成27年度総合情報センターPC利用実績

医学部マルチメディア実習室

		月	火	水	木	金
8:50 I	前					
	後					
10:20						
10:30 II	前				コミュニティセサメント論	全学共通科目(英語)
	後					英語(看2)
12:00						
13:00 III	前					
	後					
14:30						
14:40 IV	前			情報リテラシー(看)		
	後		看護統計論	情報リテラシー(医)		
16:10						
16:20 V	前					
	後		看護統計論			
17:50						
18:00 VI	前					
	後					
19:30						
19:40 VII	前					
	後					
21:10						
備 考		集中講義・講習会等 情報メディアガイダンス, 図書館情報と研究(大学院), 医学教育センター, 衛生学, 衛生学看護実習, 看護研究基礎論, 大学入門ゼミ, 大学院総論, 大学院, 看護協会講習, 臨床化学, ヘルスプロモーション演習, CBT				

この表に記載の事項は、看護学科教育研究棟事務室に申し出があったものである。

平成27年度開催の会議および行事

平成27年（2015年）

4月

- 4（土） 入学式
- 10（金） 平成27年度第1回総合情報センタースタッフ会議
ネットワークシステムズ連絡会議
- 17（金） 平成27年度第1回総合情報センター会議
富士通連絡会議

5月

- 8（金） 平成27年度第2回総合情報センタースタッフ会議
- 9（土） 平成26年度 第6回日本科学教育学会研究会（主催：日本科学教育学会、共催：香川大学総合情報センター）
- 15（金） 平成27年度第2回総合情報センター会議
富士通連絡会議

6月

- 12（金） 平成27年度第3回総合情報センタースタッフ会議
- 19（金） 平成27年度第3回総合情報センター会議
富士通連絡会議
大学の情報化に関するFD・SD（2014年度香川大学総合情報センター活動報告会）（主催：香川大学総合情報センター）

7月

- 2（木） 第12回国立大学法人情報センター協議会総会、第10回国立大学法人情報センター研究集会（岐阜大学）（3日まで）
- 10（金） 平成27年度第4回総合情報センタースタッフ会議
ネットワークシステムズ連絡会議
- 17（金） 平成27年度第4回総合情報センター会議
富士通連絡会議
- 23（木） UDCPクラウドのつくりかた勉強会（主催：開催団体、共催：香川大学総合情報センター）

8月

- 10（月） 夏季一斉休業（14日まで）

9月

- 11（金） 平成27年度第5回総合情報センタースタッフ会議
- 18（金） 平成27年度第5回総合情報センター会議
富士通連絡会議
標的型メール攻撃の見分け方の講習会（主催：情報セキュリティ管理部会、共催：香川大学総合情報センター）
- 28（月） 第19回学術情報処理研究集会（豊橋技術科学大学）（29日まで）

30 (木) 四国情報通信懇談会 ICT 研究
交流フォーラム 15 回技術セミナー
(主催: 開催団体、共催: 香川大
学総合情報センター)

10月

9 (金) 平成 27 年度第 6 回総合情報セ
ンタースタッフ会議
ネットワークシステムズ連絡会議

16 (金) 平成 27 年度第 6 回総合情報セ
ンター会議
富士通連絡会議

11月

13 (金) 平成 27 年度第 7 回総合情報セ
ンタースタッフ会議

14 (土) 『セキュリティ対策ソフトうど
ん』第 12 回セミナー・勉強会 (主
催: 四国情報セキュリティ勉強会連
絡会、共催: 香川大学総合情報セン
ター)

20 (金) 平成 27 年度第 7 回総合情報セ
ンター会議
富士通連絡会議

12月

2 (水) AXIES 大学 ICT 推進協議会 2015
年度年次大会 (愛知県産業労働セン
ター・ウインクあいち) (4 日まで)

7 (月) SINET 及び学認・UPKI 証
明書説明会 (一橋大学)

11 (金) 平成 27 年度第 8 回総合情報セ
ンタースタッフ会議
ソフトウェアテストシンポジウ
ム 2015 四国 (JaSST' 15 Shikoku)
(主催: 特定非営利活動法人 ソフ

トウェアテスト技術振興協会
(ASTER)、JaSST' 15 Shikoku 実行
委員会、共催: 香川大学総合情報セ
ンター)

18 (金) 平成 27 年度第 8 回総合情報セ
ンター会議

富士通連絡会議

29 (火) 年末年始休業 (1 月 3 日まで)

平成 28 年 (2016 年)

1月

8 (金) 平成 27 年度第 9 回総合情報セ
ンタースタッフ会議

ネットワークシステムズ連絡会議

15 (金) 平成 27 年度第 9 回総合情報セ
ンター会議

富士通連絡会議

2月

12 (金) 平成 27 年度第 10 回総合情報
センタースタッフ会議

19 (金) 平成 27 年度第 10 回総合情報
センター会議

富士通連絡会議

3月

4 (金) 教育システム情報学会学生研究
発表会 (四国地区) (主催: 教育シ
ステム情報学会、共催: 香川大学総
合情報センター)

5 (土) 電子情報通信学会教育工学研究
会 2015 年度第 9 回研究会、日本
教育工学会研究会 2016 年第 1
回研究会 (主催: 電子情報通信学会、
日本教育工学会、共催: 香川大学総

合情報センター)	センター会議
1 1 (金) 平成 2 7 年度第 1 1 回総合情報	富士通連絡会議
センタースタッフ会議	2 4 (木) 卒業式
1 8 (金) 平成 2 7 年度第 1 1 回総合情報	

センター関係会議委員・スタッフ一覧

(平成28年9月1日現在)

○総合情報センター会議

最 所 圭 三	総合情報センター長 (併)
今 井 慈 郎	教 授 (総合情報センター)
林 敏 浩	教 授 (総合情報センター)
八重樫 理 人	准教授 (総合情報センター)
後藤田 中	助 教 (総合情報センター)
黒 田 勉	教 授 (教育学部)
青 木 高 明	准教授 (教育学部)
金 宗 郁	准教授 (法学部)
横 山 佳 充	教 授 (経済学部)
岡 田 宏 基	教 授 (医学部)
大 西 平	准教授 (医学部)
安 藤 一 秋	准教授 (工学部)
田 中 直 孝	准教授 (農学部)
長 町 康 平	准教授 (大学院地域マネジメント研究科)
横 井 英 人	教 授 (医学部附属病院)
長 井 克 己	教 授 (大学教育基盤センター)
村 井 礼	教 授 (大学連携 e-Learning 教育支援センター四国)
野 田 潔	学術部長
福 家 隆	リーダー (学術室情報グループ)

○総合情報センタースタッフ

最 所 圭 三	センター長 (併)
今 井 慈 郎	教 授
林 敏 浩	教 授
村 井 礼	教 授 (併)
八重樫 理 人	准教授 (併)
後藤田 中	助 教
藤 本 憲 市	助 教 (併)
高 橋 岳 水	技術専門職員 (併)
土 居 敬 典	技術職員 (併)
裏 和 宏	パートタイム職員 (技術)

金 山 ま い	パートタイム職員（技術）
豊 嶋 尚 子	パートタイム職員（技術）
山 口 明日香	パートタイム職員（技術）
田 所 育久子	パートタイム職員（技術）
太 田 芽 衣	パートタイム職員（事務）
福 家 隆	情報グループリーダー
近 藤 まゆみ	情報グループサブリーダー
川 口 政 秀	情報グループチーフ
立 石 晃 一	情報グループチーフ
岡 本 裕 之	情報グループチーフ
前 田 由 佳	情報グループチーフ
山 下 俊 昭	情報グループグループ員
末 廣 紀 史	情報グループグループ員
末 光 京 子	パートタイム職員（事務）
青 木 有 香	パートタイム職員（事務）
曾 根 計 俊	情報グループチーフ（平成２８年３月３１日付 退職）
六 車 建	情報グループチーフ（平成２７年１１月５日付 退職）
植 田 めぐみ	パートタイム職員（事務）（平成２８年３月３１日付 退職）
久 保 まゆみ	パートタイム職員（事務）（平成２８年３月３１日付 退職）

資 料

香川大学総合情報センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人香川大学組織規則第18条第2項の規定に基づき、香川大学総合情報センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における情報化推進並びに情報基盤システムを含む情報システム（以下「情報システム」という。）の整備、管理・運営、支援を行い、教育研究及び大学の運営に資するとともに、情報システム及び情報通信技術の応用に関する研究と教育を行い、その発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。
- (2) 情報通信技術を活用した教育環境の整備計画・電子教材製作支援に関すること。
- (3) 全学基盤に係る情報システムの構築及び管理運用に関すること。
- (4) ネットワークシステムに関すること。
- (5) 情報セキュリティの施策及び実施に関すること。
- (6) 総合情報センターが提供する各種情報サービスに関するユーザからの問合せ対応に関すること。
- (7) 国立情報学研究所等の学外情報ネットワークとの連携に関すること。
- (8) 情報システムの点検・評価に関すること。
- (9) その他業務の実施に関し必要な調査

研究に関すること。

(組織)

第4条 センターは、前条の業務を遂行するために、次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 情報戦略部門
- (2) 教育デザイン部門
- (3) 教育システム部門
- (4) ネットワークシステム部門
- (5) 情報セキュリティ部門
- (6) ユーザーサービス部門

(分室)

第5条 センターは、三木町医学部キャンパス、林町キャンパス及び三木町農学部キャンパスに、それぞれ分室を置く。

2 分室に関し必要な事項は、別に定める。

(構成員)

第6条 センターは、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な者

2 センターに副センター長を置くことができる。

3 センターの各部門に部門長を置くことができる。

(センター長)

第7条 センター長の任命は、学長が指名する理事又は副学長の推薦に基づき、本学専任教授の中から、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を統括する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該センター長を任命する学長の任期の末日以前でなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞

任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長の選考時期)

第8条 センター長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
- (2) 辞任を申し出たとき。
- (3) 欠員となったとき。

2 センター長の選考は、前項第1号の場合には、任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には、速やかに行うものとする。
(副センター長)

第9条 第6条第2項に基づき副センター長を置くときは、センター長の推薦に基づき、学長が指名する理事又は副学長が任命する。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。
- 3 副センター長の任期は2年とし、再任することができる。ただし、センター長の任期を超えることはできない。
- 4 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第10条 第6条第3項に基づき各部門に部門長を置くときは、センター長の推薦に基づき、学長が指名する理事又は副学長が任命する。

- 2 部門長は、部門の業務を統括する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第11条 センター主担当教員の任命は、学長が行う。

- 2 候補者の教育研究業績の審査について、学長から付託された場合において、香川大学総合情報センター会議が審査したセンター主担

当教員候補者を報告する。

(客員教授等)

第12条 センターに客員教授及び客員准教授(以下「客員教授等」という。)を置くことができる。

- 2 客員教授等の称号付与は、センター長の申出に基づき、学長が行う。
- 3 前項の申出は、センターが選考した候補者を推薦することにより行う。
- 4 客員教授等は、第6条第1項第2号及び第3号に掲げる構成員を兼務することができる。
(事務)

第13条 センターの事務は、センターが関係する学部事務課の協力を得て、総合情報センター及び学術室情報グループにおいて処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行より、香川大学総合情報基盤センター規則(平成16年4月1日制定)は、廃止する。
- 3 この規程の施行の際、現にセンター長である者の任期は、第7条第3項及び第4項の規定にかかわらず、平成19年9月30日までとする。

附 則(平成20年3月1日)

この規程は、平成20年3月1日から施行する。

附 則(平成20年4月1日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年6月22日)

この規程は、平成21年6月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則(平成22年4月1日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成 25 年 4 月 1 日）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、現にセンター長である者の任期は、第 7 条第 3 項及び第 4 項の規定にかかわらず、平成 25 年 9 月 30 日までとする。

- 3 この規程の施行の際、現に部門長である者の任期は、第 9 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 25 年 9 月 30 日までとする。

附 則（平成 27 年 4 月 1 日）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 4 月 1 日）

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

香川大学総合情報センター会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学組織運営規則第12条の2第2項の規定に基づき、香川大学総合情報センター会議（以下「センター会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(任務)

第2条 センター会議は、総合情報センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務に関する事項
- (2) センター担当教員選考に関する事項
- (3) その他センター長が管理運営及び教育研究に関して必要とする事項

(組織)

第3条 センター会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) 各学部から選出された教員各1人
- (4) 地域マネジメント研究科から選出された教員1人
- (5) 医学部附属病院から選出された教員1人
- (6) 学術部長
- (7) 学術室情報グループリーダー
- (8) その他センター長が必要と認めた者

2 前項第3号から第5号まで及び第8号の委員は、学長が任命する。

3 第1項第3号から第5号まで及び第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 第1項第3号から第5号まで及び第8号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

2 議長は、センター会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 センター会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 センター会議は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴取することができる。

(事務)

第7条 センター会議の事務は、学術室情報グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、センター会議に関し必要な事項は、センター会議が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程の施行により、香川大学総合情報基盤センター運営委員会規則（平成16年4月1日制定）及び香川大学情報評価分析センター規則（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

3 この規程の施行の際、現に委員である者の任期は、第3条第3項及び第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則（平成20年4月1日）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成 27 年 4 月 1 日）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

香川大学総合情報センター利用規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学総合情報センター規程第13条の規定に基づき、香川大学総合情報センター（以下「センター」という。）及びセンターが管理する 情報システム（以下「センターシステム」という。）の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者)

第2条 センター及びセンターシステムを利用することのできる者は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 香川大学（以下「本学」という。）の常勤及び非常勤の職員のうち職員番号が付与されている者
- (2) 本学の学生（研究生等を含む。以下同じ。）
- (3) その他総合情報センター長（以下「センター長」という。）が適当と認める者

(利用の申込)

第3条 前条第3号の利用者は、所定の事項を記入したセンター利用登録申請書（様式第1号）をセンター長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 センター長は、前条第1号及び第2号の利用者並びに前項の承認をした利用者に、センターシステム利用者ID（以下、「利用者ID」という。）を交付するものとする。

3 利用者IDの有効期限は、在籍期間とする。ただし、前条第3号の利用者IDの有効期限は1年以内とし、当該年度を超えることができない。

(変更の承認)

第4条 センターシステムの利用を承認された者（以下「利用者」という。）は、利用登録の内容について変更が生じた場合には、速や

かにセンター長に届け出なければならない。

(利用時間)

第5条 センターの開館日は、以下に掲げる日を除く平日とする。ただし、センター長が開館を必要と認めた場合については、この限りではない。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで
- (3) その他センター長が開館を必要と認めた日

2 センター施設の利用時間は、センター長が別に定める。

3 前項の規定にかかわらず、センターシステム等に障害が発生した場合又は保守作業を行う場合は、利用を中止し、又は停止することがある。

(不正使用の禁止)

第6条 利用者は、下記の行為をしてはならない。

- (1) 所定の手続きを経ずに不正にセンターを利用する行為
- (2) 第三者に不正に利用させる行為
- (3) 申請書に虚偽の記載を行う行為
- (4) 機密事項を漏洩する行為又はそのおそれがある行為

(利用の報告)

第7条 センター長は、必要に応じて利用者に対して、利用状況の経過等について報告を求めることができる。

(利用の遵守)

第8条 利用者は、センターシステムの利用にあたり、この規程及びセンター会議での審議を経た事項を遵守するものとする。

(損害賠償)

第9条 利用者は、故意又は重大な過失により、その使用に係る物品を損傷したときは、その損害を弁償する責めを負わなければならない。(利用の取り消し等)

第10条 利用者がこの規程に違反し、又はセンターの運営に重大な支障を生じせしめたときは、センター長はその利用の承認を取り消し、又はその利用を一定期間停止させることができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センター及びセンターシステムの利用に関し必要

な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 この規程の施行より、香川大学総合情報基盤センター利用規程（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

附 則（平成25年6月1日）

この規程は、平成25年6月1日から施行する。

附 則（平成28年4月1日）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

(様式第 1 号)

香川大学総合情報センター利用登録申請書

平成 年 月 日

香川大学総合情報センター長 殿

申 請 区 分		☐ 新規 ☐ 取消		利用目的	☐ 研究 ☐ 教育 ☐ 事務 ☐ その他 ()	
申 請 者	所 属				職 名	
	フリガナ				連 絡 先	電話: - (内線)
	氏 名	印				Email:
登 録 者	☐ 一括登録	登 録 者 デ ー タ	別添のとおり			
	☐ 個別登録	所 属			職 名	
		フリガナ			登録希望 I D	
		氏 名				
		連 絡 先	電話: - (内線)	Email:		
利 用 期 間	平成 年 月 日 から 平成 年 月 日 まで					
備 考						

(以下は記入しないでください。)

受 付 年 月 日	平成 年 月 日	整 理 番 号	第 号
利 用 者 I D		パ ス ワ ー ド	
有 効 期 限	平成 年 月 日		

上記の申請を承認します。

平成 年 月 日

香川大学総合情報センター長

(注) 一括登録用の登録者データは、必要項目がそろっていれば、電子ファイルでも受け付けます。

ご提供いただく個人情報につきましては、総合情報センター機器の利用登録に利用することを目的としてご提供いただき、この目的の範囲内での利用に限定いたします。
個人情報をご提供いただく際に明示した目的の範囲を越えて個人情報を利用する必要がある場合には、事前にその目的をご連絡いたします。

[illegible]

香川大学キャンパス情報ネットワーク運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学（以下「大学法人」という。）キャンパス情報ネットワーク（以下「学内ネットワーク」という。）の管理運営について、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則における用語の意義は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 「部局」とは、教育学部（附属教育研究施設及び附属学校を含む。）、法学部、経済学部、医学部、工学部、農学部（附属教育研究施設を含む。）、香川大学・愛媛大学連合法務研究科、地域マネジメント研究科、図書館、博物館、医学部附属病院、総合情報センター（以下「センター」という。）及び法人本部をいう。この場合において、センター以外の学内共同教育研究施設等（以下「施設等」という。）については、施設等の設置場所が幸町キャンパスにあつては法人本部、三木町医学部キャンパスにあつては医学部、林町キャンパスにあつては工学部、三木町農学部キャンパスにあつては農学部の部局に含める。
- (2) 「部局長」とは、前号に規定する部局長をいう。
- (3) 「ネットワーク」とは、コンピュータ、端末装置等を相互に接続するための通信ケーブル及び接続用機器をいう。
- (4) 「学内ネットワーク」とは、基幹ネットワークと支線ネットワークで構成されたものをいう。
- (5) 「基幹ネットワーク」とは、キャン

パス間並びにキャンパス内における部局間及び建物間を結ぶネットワークをいう。

- (6) 「支線ネットワーク」とは、基幹ネットワークの接続機器に接続される建物内のネットワークをいう。

(区分)

第3条 学内ネットワークは機能上、教育研究用ネットワーク、診療用ネットワーク及び事務用ネットワークに区分するものとする。

(管理責任等)

第4条 学内ネットワークを管理運営するため、総括責任者を置き、総合情報センター長（以下「センター長」という。）をもって充てる。

2 基幹ネットワークは、センターにおいて管理運用し、その管理者はセンター長をもって充てる。

3 支線ネットワークのうち、教育研究用ネットワークは、該当部局において管理運用し、その管理者は当該部局長（以下「部局管理者」という。）をもって充てる。

4 支線ネットワークのうち、診療用ネットワークは、医学部附属病院において管理運用し、部局管理者は医学部附属病院長をもって充てる。

5 支線ネットワークのうち、事務用ネットワークは、学術室において管理運用し、その管理者は学術部長をもって充てる。

6 複数部局により一体として運用する支線ネットワークにおいては、関係部局の協議により、当該支線ネットワーク共通の担当者置くことができる。

(利用者の資格)

第5条 学内ネットワークに接続することができる者は、次の各号の1に掲げる者とする。

- (1) 大学法人職員
- (2) 部局管理者が許可した者
- (3) その他センター長が適当と認めた者
(利用の範囲)

第6条 学内ネットワークは、教育研究用、診療用及び事務用以外の目的で利用してはならない。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、学内ネットワークの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行す

る。

附 則 (平成17年6月23日)

この規則は、平成17年6月23日から施行し、平成17年6月1日から適用する。

附 則 (平成20年4月1日)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年6月22日)

この規程は、平成21年6月22日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則 (平成25年4月1日)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

香川大学キャンパス情報ネットワーク運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、香川大学キャンパス情報ネットワーク運営規則第7条の規定に基づき、学内ネットワークの運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学内ネットワークの管理運用)

第2条 総合情報センター（以下「センター」という。）は、香川大学総合情報センター会議（以下「センター会議」という。）の策定する運営方針に従い、学内ネットワークの管理運用に関し、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 基幹ネットワークの良好な動作状態の維持
- (2) 基幹ネットワークと支線ネットワークの接続に関する技術的指導及び支援
- (3) 学内ネットワークに接続する機器のドメイン名及びIPアドレス空間の管理
- (4) 学外ネットワークとの接続に関する業務
- (5) ネットワーク機器及びその接続形態に関しての各部局に対する技術的支援
- (6) その他センター会議から付託された業務

2 センターは、前項第3号に掲げる機器のドメイン名及びIPアドレスを割り当てる場合、当該部局と協議するものとする。

3 基幹ネットワークを構成する機器は、センター長の許可なく改修等を行ってはならない。

4 教育研究用ネットワークにおける支線ネットワーク上のコンピュータ等を他部局の管理する支線ネットワークに接続する場合は、当該部局間で協議するものとする。

(教育研究用ネットワークの管理運用)

第3条 支線ネットワークのうち、教育研究用

ネットワークの管理運用は、センター会議の策定する運営方針に従い、当該部局において次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究用ネットワーク利用諸手続
- (2) 教育研究用ネットワークの良好な動作状態の維持及び管理
- (3) その他教育研究用ネットワークの管理運用に関し必要な事項

2 教育研究用ネットワークの管理運用業務を補佐するため、部局担当者（技術・事務）を置き、部局管理者が指名するものとする。

3 この細則に定めるもののほか、教育研究用ネットワークの取扱いについては、別に定める。

(診療用ネットワークの管理運用)

第4条 支線ネットワークのうち、診療用ネットワークの管理運用は、センター会議の策定する運営方針に従い、医学部附属病院において次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 診療用ネットワーク利用諸手続
- (2) 診療用ネットワークの良好な動作状態の維持及び管理
- (3) その他診療用ネットワークの管理運用に関し必要な事項

2 診療用ネットワークの管理運用業務を補佐するため、部局担当者（技術・事務）を置き、部局管理者（医学部附属病院長）が指名するものとする。

3 この細則に定めるもののほか、診療用ネットワークの取扱いについては、別に定める。

(事務用ネットワークの管理運用)

第5条 支線ネットワークのうち、事務用ネットワークの管理運用は、センター会議の策定する運営方針に従い、学術・地域連携推進室において次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 事務用ネットワーク利用諸手続
 - (2) 事務用ネットワークの良好な動作状態の維持及び管理
 - (3) その他事務用ネットワークの管理運用に関し必要な事項
- 2 この細則に定めるもののほか、事務用ネットワークの取扱いについては、別に定める。
(基幹ネットワークへの接続)
- 第6条 基幹ネットワークに支線ネットワークを接続しようとする者は、当該部局管理者に申し出るものとする。
- 2 部局管理者は、前項の申し出を受け、これを必要と認める場合は、センター長に申請し、相互接続の承認を得て必要な事項の割当を受けるものとする。
- 3 接続に係わる経費については、支線ネットワーク接続者が負担するものとする。
(教育研究用ネットワークへの接続)
- 第7条 支線ネットワークのうち、教育研究用ネットワークに機器を接続しようとする者
(以下「申請者」という。)は、当該部局管理者に所定の申請書を提出するものとする。
- 2 所属部局と異なる部局の支線ネットワークに機器を接続しようとするときは、所属部局管理者を経て、接続しようとする支線ネットワークの部局管理者に所定の申請書を提出するものとする。
- 3 部局管理者は、第1項及び前項に基づく申請が適当であると認めたときは、アドレス番号を付して許可するものとする。
- 4 部局管理者は、前項の許可をしたときは、センター長に速やかに報告するものとする。
- 5 教育研究用ネットワークに機器を接続した者が、その利用を取り止める場合は、所属部局の部局管理者又は接続しているネットワークの部局管理者に届け出るものとする。
- 6 部局管理者は、前項の届け出があったときは、センター長に速やかに報告するものとする。

る。

- 7 接続及び廃止に係わる経費については、申請者が負担するものとする。

(学内ネットワークの変更)

第8条 基幹ネットワークの変更、支線ネットワークと基幹ネットワーク接続機器との接続形態の重要な変更及び新しいプロトコルの使用は、センター会議で審議する。

- 2 部局において教育研究用ネットワーク、診療用ネットワーク又は事務用ネットワークを変更しようとするときは、あらかじめセンター長と協議しなければならない。

(支線ネットワーク内の変更)

第9条 支線ネットワーク内部において、基幹ネットワークの運用に影響を及ぼすような変更を行おうとする者は、事前に部局管理者に申し出るものとする。

- 2 部局管理者は、前項の申し出を受けた場合、センター長と連絡協議の上、必要と認めたときは、これを承認する。

(学内ネットワークの運用を担当する者の遵守事項)

第10条 センター長、センター職員、部局管理者及び部局担当者は、学内ネットワークを利用する通信の秘密を侵してはならない。

(ネットワーク利用者の責任)

第11条 ネットワーク利用者(以下「利用者」という。)は、部局管理者に許可されたIPアドレス以外のアドレスを用いたネットワーク機器を接続してはならない。

- 2 利用者は、学内ネットワークの円滑な運営を妨げないよう、良識をもって利用しなければならない。

- 3 利用者の故意又は重大な過失により、ネットワークに障害が生じた場合は、責任を負わなければならない。

(接続許可の取消し及び利用の制限)

第12条 センター長又は部局管理者は、利用

者がこの細則その他関連する規則等に違反したと判断したときは、そのコンピュータ等の接続許可の取消し又は利用を制限することができる。

- 2 センター長、部局管理者及び部局担当者は、協議の上、必要に応じて利用者の利用状況を調査することができる。

(維持に関する経費)

第13条 基幹ネットワークの維持に要する経費については、センター会議の定めるところによる。

- 2 支線ネットワークの維持に要する経費は、原則として当該部局で負担するものとする。

(損害の補償)

第14条 利用者が学内ネットワークの利用に

より被った損害は、その原因にかかわらず補償されない。

(雑則)

第15条 この細則に定めるもののほか、学内ネットワークの運営に関し必要な事項は、センター会議が定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年6月1日)

この細則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則 (平成20年4月1日)

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年11月1日)

この細則は、平成27年11月1日から施行する

編集後記

FD/SD を開催し、前年度を総括しつつ、来る年度へのミッションを相互に確認するという新しい方式での年報作成方針に変更して二年目となる。今回 FD/SD では、近堂徹先生(広島大学情報メディア教育研究センター)に招聘講師としてお越しいただき「広島大学におけるクラウド化の実際」について一般参加の皆さまと一緒に大変貴重なご講演を拝聴できたと喜んでいる。その後、本学の総合情報センターから前年度の報告を行い、総括して、最所圭三総合情報センター長より部門制採用と次期システム導入などを骨子とする本年度の取り組み状況の説明を行った。前年度の報告等は当該年報の記載事項であるため、そちらを参照していただきたい。

さて、昨年度は新しい時代の始まりと同時に盟友引退の年でもあった。前者の象徴的な事案としては(正確には平成 28 年度から正式運用となっているが)旧来の当該センターホームページ改善がスタートした。これを統計解析してユーザ動向をより深く理解する試みについては次回の年報でより詳細に記載されることになる。多くの若いスタッフ(非常勤の方も含めて)による確実な進捗は今後多くの成果を期待できる予感がある。また昨年度から新加入の後藤田教員には今後ますます主力の一角を担って欲しいとの内外の期待も高まる。一方、曾根計俊氏および横山美保氏の大学から退任はまさに盟友を送るという言葉通りとなった。曾根さんとは平成 5 年度から同僚として厚情をいただいた(実はそれ以前から存じ上げていたが)。また横山さんの送別会には遠く愛媛大学から(本当に?)駆け付けてきたかつての同僚も含めて会場いっぱい仲間が集ったことは同氏の人柄がよく表れていた。

このような組織としての新陳代謝も経験しつつ、最所センター長指摘の通り、新教育システム導入諸作業が待ったなしで進行している。総合情報センターおよび情報グループは、吉田秀典副学長(CIO/CSIO)、最所センター長、福家隆グループリーダーのトロイカ体制のもと、課題山積の中、これからも頑張って航海を続けていく所存である。

大学諸事情を勘案すれば多くは語れないものの、現状が十分な人的資源であるとは言えず、構成メンバーの力不足への認識と各自奮励努力することを前提に、学内外のユーザの皆さまからのご協力とご鞭撻をこれまでと同様をお願いする状況に変わりなく、力強いご支援を今後も強くお願い申し上げたい。

今井

年報 第12号

平成28年9月発行

編集・発行 香川大学総合情報センター

〒760-8523 高松市幸町2番1号

TEL 087-832-1292

FAX 087-832-1293